

令和3年度

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」

研究開発実施報告書(第3年次)

福井県立鯖江高等学校

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

これまでの実践例

- 福井国体時に市民向けに行った鯖江市デジタルパンプアップレットの成果発表



- 鯖江市主催の地域活性化プログラムコンテストに更大学生等とチームで参加し、最優秀賞を受賞



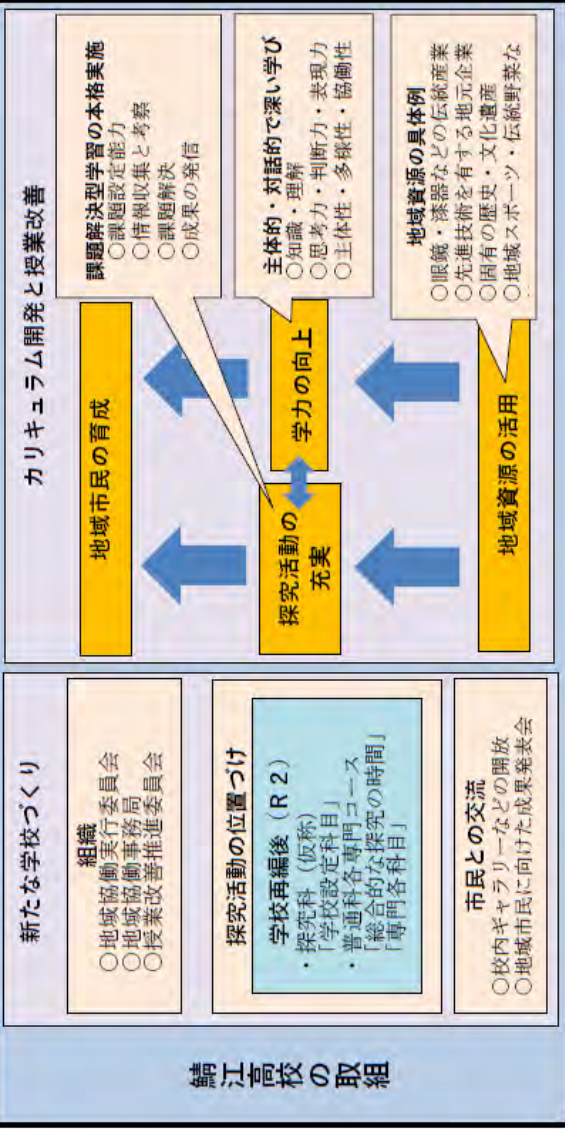
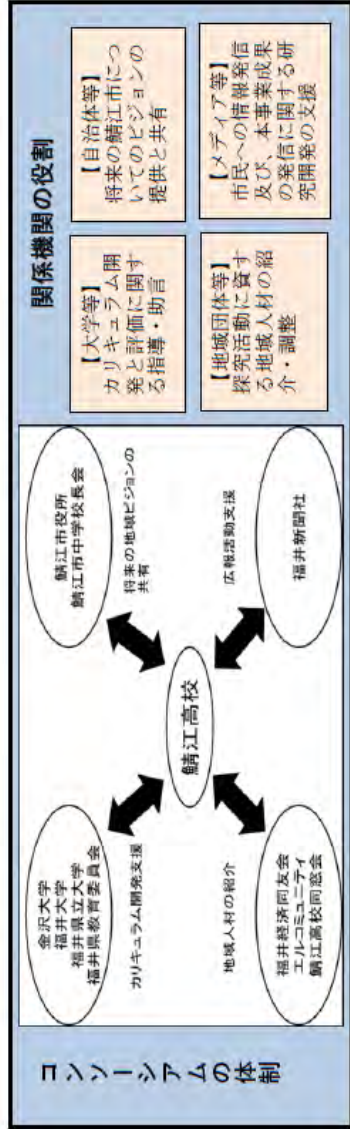
【成果】

- 総合的な学習の時間への探究学習の導入
- 地域の学校観の変化

【課題】

- 地域との連携の組織化
- 地域課題解決型学習の本格導入と実践
- 全校体制のカリキュラム開発と授業改善

地域との協働を柱に、普通科専門コース・探究科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成



成果目標

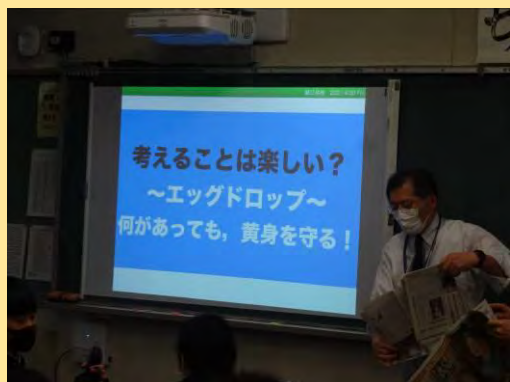
①県内就職希望の生徒 85%以上

①県内就職率 100%

地域への愛着とチャレンジ精神をもった、地域の未来を育てる市民を育成

活動の記録

1年探究科 探究活動



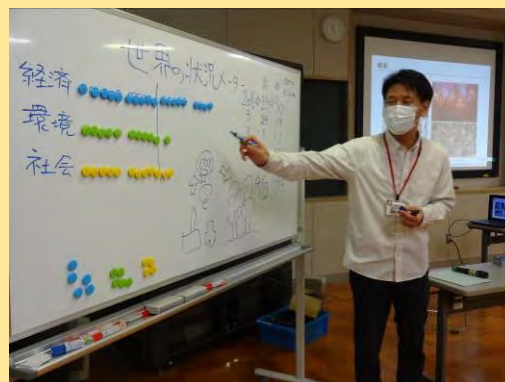
仁愛大学教授 特別講義
「課題研究とは」



仁愛大学教授 特別講義
「問いの立て方」



鯖江市の企業との交流会



2030 SDGs カードゲーム体験

1年普通科 総合的な探究の時間「新聞記事作り」



福井新聞社 特別授業
「伝えるための文章の書き方,
インタビューの仕方」



オンラインインタビュー

2年探究科 探究活動



仁愛大学教授 特別講義
「実験に際して気を付けること」



仁愛大学准教授 特別講義
「調査の方法について」



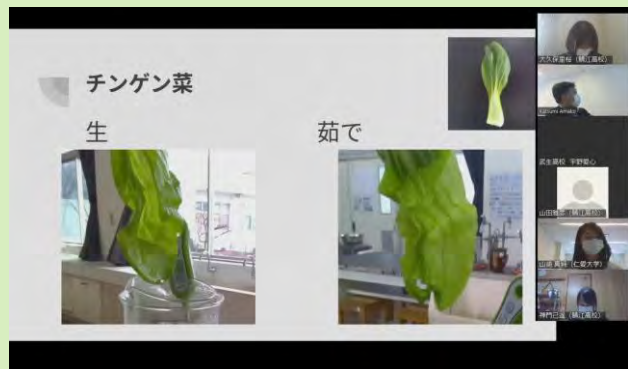
仁愛大学 ワークショップ



課題探究 インタビュー



中間発表会



探究学習 合同発表会
(オンライン)

2年普通科 総合的な探究の時間「鯖江市SDGs探究プロジェクト」



鯖江市のSDGsの課題



露木志奈氏によるSDGs講演会



企業訪問 インタビュー



企業訪問 インタビュー



校内での一斉インタビュー



動画作成班による撮影風景

2年普通科 総合的な探究の時間「鯖江市SDGs探究プロジェクト」



中間発表会



クリーンセンター見学



ビジョントレーニング体験



SDGs対談



小学校との交流会



実践活動報告会

各教科での取組み



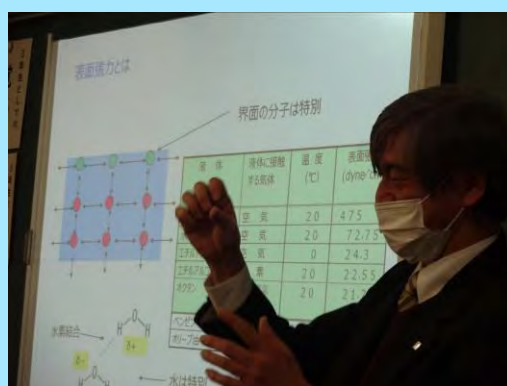
「人形浄瑠璃」特別授業（音楽）



「人形浄瑠璃」発表会（音楽）



「エシカル消費」特別授業（英語）



「高分子」特別授業（化学）



「放射線」特別授業（生物）



「消費者教育」出前授業（現代社会）

目次

・ ビジュアルシート・活動の記録	
・ はじめに（鯖江高等学校長）	1
・ 研究開発の概要	
学校の概要	2
教育方針・努力目標	
在籍生徒一覧・進路状況	
各学科・コースの特徴と教育課程	4
鯖江高校における探究学習の流れ	6
ロジックモデル	7
地域協働事業組織図	7
研究開発報告（文部科学省提出書類「研究開発完了報告書より」）	8
目標設定シート	18
・ 具体的な取り組み内容	
「総合的な探究の時間」実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）	
1年 探究科「探究」の取り組み	19
2年 探究科「探究」の取り組み	21
1年 普通科「総合的な探究の時間」の取り組み	23
2年 普通科「総合的な探究の時間」の取り組み	25
3年 普通科「総合的な探究の時間」の取り組み	27
地域の方々にご協力いただいた活動	
1年探究科「探究」	29
2年探究科「探究」	29
1年普通科「総合的な探究の時間」	30
2年普通科「総合的な探究の時間」	31
各教科での取り組み	33
その他の活動	34
校外活動への参加	34
運営委員会	
議事録 第1回運営指導委員会	35
第2回運営指導委員会	41
・ 資料	
地域協働ニュース（第1号～第21号）	48
地域協働だより	70
【写真資料】小学校との交流	72

はじめに

本校は令和元年度より、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定を受け、研究開発名を「鯖江型高校教育『オール SABAE』」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成」とし、研究に取り組んでまいりました。地域への愛着とチャレンジ精神をもち、地域の未来を育てていく市民の育成を目標に見据え、地域との協働を柱に、持続可能な地域社会を形成していく高校生を育成する高校教育のカリキュラム開発を進めてきました。この度、最終年度である令和3年度の研究開発の概要および具体的な取り組み内容について、研究開発実施報告書をまとめることができました。本事業にご協力いただきました皆様にお礼申し上げますとともに、ご一読いただき、本校の取り組みに対しましてご意見、ご助言、ご指導をいただけますと幸いです。

本校が所在する福井県鯖江市は、県庁所在地である福井市の南に隣接する人口約7万人の都市で、眼鏡や繊維、漆器などの伝統産業が盛んです。地域活性化に向けた新たな自治体モデルを目指す活気あふれる街でもあり、本校は本事業に取り組む前からも、鯖江市役所と協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、地域教材を活用した授業開発を行ってきました。そして、本事業により、地元鯖江市と高等学校での教育活動の結びつきをさらに強固なものにすることによって、地域とつながりながら高校教育の活性化を図り、将来にわたって鯖江市、そして福井県を支える人材の育成を進めてきました。

その取り組みの一環として、令和元年6月に鯖江市、鯖江商工会議所との三者連携協定を締結し、文化・教育・学術の振興と発展、人材育成、まちづくり、地域産業振興など、あらゆる分野で連携を図りながら、地域活性化に向けて取り組んできました。また、令和3年2月には地元の仁愛大学と高大連携・高大接続に関する協定書を締結し、探究活動の指導や授業力向上のための研究に連携して取り組んでいます。事業としての3年間は終了しましたが、これらの関係機関とは引き続き連携を密にして、地域との協働による探究の学びをこれまで以上に進めてまいります。

併せて、令和2年度に始まった高等学校再編が、本校と同じ鯖江市内に所在する丹南高校と統合する形で令和4年度に完了しました。丹南高校で行われていた専門教育（福祉、デザイン、IT）を引き継ぐとともに、本校の特色でもある体操競技、陸上競技（長距離：駅伝）に特化したスポーツを専攻とする2コース（スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコース）を普通科内に設置しました。また、課題解決型の探究的な学びに重きを置く探究科を新たに設置しました。本事業で得られた地域とのつながりをこの専門教育にも活かすとともに、探究科では生徒自身の課題研究による主体的な学びをさらに充実させていきたいと考えています。

最後になりましたが、本事業を推進するにあたり、ご指導、ご支援いただきました文部科学省、福井県教育委員会、鯖江市、鯖江商工会議所、仁愛大学をはじめ、各高等教育機関や行政機関、研究機関、運営指導委員会の皆様など、多くの方々に感謝申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます、さらには生徒の今後のますますの成長を願い、ご挨拶といたします。

令和4年4月

福井県立鯖江高等学校長
浅井 裕規

研究開発の概要

学校概要（令和3年度）

学校名 福井県立鯖江高等学校
校長名 浅井 裕規
所在地 〒916-8510 福井県鯖江市舟津町2丁目5-42
電話番号 0778-51-0001
FAX番号 0778-51-0103
URL <http://www.sabae-h.ed.jp>



鯖江高等学校教育方針

1. 真理と正義を愛し，生命と平和を尊ぶ人間を育成する。
2. 勤労を愛し，礼儀と秩序を重んじ，自主的で責任感に富む人間を育成する。
3. 心身ともに健康で，豊かな教養と国際的視野を備えた人間を育成する。

努力目標

1. 学習指導の充実
 - ① 基礎学力の充実を図り，豊かな創造力と的確な判断力の養成に努める。
 - ② 専門教科の研究に励み，生徒の多様な個性に応じた学習指導法の改善に努める。
 - ③ 主体的な学習の習慣を確立し，豊富な知識と国際感覚を身につけた生徒の育成に努める。
2. 生活指導・進路指導の充実
 - ① 秩序と規律を重んじ，品位ある生活態度の育成に努める。
 - ② 保護者との連携を図り，共通理解のもとに生活指導や進路指導の充実に努める。
 - ③ 個々の生徒の能力・適性・希望に応じた計画的な進路指導の推進に努める。
3. 教育環境の整備・美化
 - ① 敬愛と友情を基調とした人間関係を育成して，快適な精神的環境づくりに努める。
 - ② 勤労の尊さと，働くことの喜びを味わうことができる清新な環境づくりに努める。
 - ③ 自然を愛護し，資源を大切にする生活態度の育成に努める。
4. 健康・福祉・安全教育の推進
 - ① 規則的な生活習慣の確立と，心身の健康の保持・増進に努める。
 - ② 命の尊さを知り，思いやりの心のある生徒の育成に努める。
 - ③ 状況を的確に判断し，安全に行動できる生徒の育成に努める。

生徒在籍一覧（令和3年4月）

学年	学科・コース		クラス数	在籍数		
				男	女	計
1年	探究科		1クラス	21	17	38
	普通科	スタンダードコース	4クラス	96	50	146
		スポーツ・健康福祉コース	1クラス	12	23	35
		I T・デザインコース	1クラス	22	15	37
2年	探究科		1クラス	20	18	38
	普通科	スタンダードコース	4クラス	89	52	141
		スポーツ・健康福祉コース	1クラス	11	27	38
		I T・デザインコース	1クラス	23	15	38
3年	普通科		4クラス	70	79	149
			合計	364	296	660

丹南地区の高等学校再編により、普通科のみであった学科が、令和2年度入学生より探究科が新設されるとともに、普通科の中にスポーツ・健康福祉コース、I T・デザインコースが新設された。

令和4年度より、すべての学年が探究科と普通科（スタンダードコース、スポーツ・健康福祉コース、I T・デザインコース）となる。

進路状況（令和3年度卒業生）

	埼玉		東京		神奈川		新潟		石川		福井		岐阜		愛知		京都		大阪		兵庫		福岡		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
国公立4大			1				2				12	10													25
私立4大	2		6	3		1			2	1	17	15		1	4	4	4	2	4		2		2		70
国公立短大																									0
私立短大				1								5													6
専門学校				1					1	2	16				1		1	1	6						29
文科省管外																									0
就職											4	6													10
浪人/その他											5	4													9
合計	2	0	7	5	0	1	2	0	2	2	40	56	0	1	4	5	4	3	5	6	2	0	2	0	149

探究科

- 1 探究的な学びを通して、知的好奇心を高める発展的な学習をします。
- 2 2年次から理系・文系に分かれます。
- 3 難関大を含む中核国公立大学進学を目指します。



【探究科 教育課程】 この教育課程は令和3年度入学者のものです。令和4年度以降、変更される場合があります。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年		国語総合			現代社会		数学Ⅰ・Ⅱ・A				物理基礎	生物基礎	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ 英語表現Ⅰ			家庭基礎	社会と情報	探究	L H														
2年	理系	現代文B	古典B	地理B	世界史A	数学Ⅱ		理数数学A	物理探究 生物探究	化学基礎	化学探究	コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ			体育	保健	探究	L H																		
	文系	現代文B		古典B	日本史A 世界史A	世界史探究 日本史探究	倫理	数学Ⅱ・B		化学基礎	コミュニケーション英語Ⅱ	英語総合	体育	保健	探究	L H																				
3年	理系	現代文B	古典B	地理B	理数数学B				物理探究・化学探究・生物探究			コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ			体育	探究	L H																			
	文系	現代文B	古典探究		世界史探究 日本史探究	政治経済	数学探究A 数学探究B		実践生物	実践化学	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合	体育	探究	L H																					

は学校設定科目

普通科スタンダードコース

- 1 基礎基本を重視した授業を展開します。
- 2 2年次から理系・文系に、さらに文系は3年次に文Ⅰ・文Ⅱに分かれます。
- 3 国公立大学から私立大学等、多様な進路希望に対応するきめ細かいカリキュラムを設定します。



【普通科スタンダードコース 教育課程】 この教育課程は令和3年度入学者のものです。令和4年度以降、変更される場合があります。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年		国語総合			現代社会		数学Ⅰ・Ⅱ・A				地学基礎	化学基礎	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ 英語表現Ⅰ			社会と情報	総合	L H															
2年	理系	現代文B	古典B	地理B	数学Ⅱ・Ⅲ・B				物理基礎 生物基礎	物理生物	化学	体育	保健	コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ			家庭基礎	総合	L H																	
	文系	現代文B		古典B	世界史B 日本史B	日本史A 世界史A	数学Ⅱ・A・B		生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ			家庭基礎	総合	L H																		
3年	理系	現代文B	古典B	世界史A	地理B	数学Ⅲ・B				物理生物	化学	体育	コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ			総合	L H																			
	文Ⅰ	現代文B	古典B	世界史B 日本史B	政治経済	数学Ⅱ・B		実践化学 実践地学	実践生物	体育	コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ			総合	L H																					
		現代文B	古典B	世界史B 日本史B	政治経済	数学Ⅱ・B	体育	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ			※ 選択	総合	L H																						

※日本史世界史演習・数学B・実践生物・体育・保健・素描・演奏研究

は学校設定科目

普通科 スポーツ・健康福祉コース

- 1 スポーツ専攻では競技スポーツ、健康スポーツについて学びます。
- 2 健康福祉専攻では社会福祉を中心に保育、栄養など広く学びます。
- 3 週6～8時間の専門教科の授業を主に丹南高校の施設で行います。



【普通科 スポーツ・健康福祉コース 教育課程】

この教育課程は令和3年度入学者のものです。令和4年度以降、変更されることがあります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年 スポーツ健康福祉	国語総合		現代社会		数学Ⅰ・A		生物基礎		コミュニケーション英語Ⅰ		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		社会と情報		家庭総合		スポーツⅠ						総合 LH					
	フードデザイン						ボランティア基礎						社会福祉基礎																			
2年 スポーツ健康福祉	現代文B		古典B		世界史A		日本史B		数学Ⅰ・A		地学基礎		コミュニケーション英語Ⅱ		体育		保健		家庭総合		スポーツコンディショニング サイエンス オプ ライフ		スポーツⅠ						総合 LH			
	生活支援技術						生活支援技術						フードデザイン																			
3年 スポーツ健康福祉	現代文B		古典B		日本史B		政治経済		数学Ⅱ		化学基礎		コミュニケーション英語Ⅲ		体育		総合スポーツ		スポーツⅠ						総合 LH							
	実践生物						介護総合演習						子どもの発達と保育																			

は専門科目

普通科 IT・デザインコース

- 1 IT専攻では情報の管理・活用における知識・技能を学びます。
- 2 デザイン専攻では美術、デザイン、伝統工芸における知識・技能を学びます。
- 3 週6～9時間の専門教科の授業を主に丹南高校の施設で行います。



【普通科 IT・デザインコース 教育課程】

この教育課程は令和3年度入学者のものです。令和4年度以降、変更されることがあります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年 ITデザイン	国語総合		現代社会		数学Ⅰ・A		生物基礎		コミュニケーション英語Ⅰ		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		社会と情報		情報の表現と管理		情報テクノロジー		アルゴリズムとプログラム		総合 LH							
	素描		構成																													
2年 ITデザイン	現代文B		古典B		世界史A		物理基礎		コミュニケーション英語Ⅱ		体育		保健		家庭基礎		数学Ⅱ・B		情報システム実習		情報テクノロジー		アルゴリズムとプログラム		総合 LH							
	数学Ⅱ		英語表現Ⅰ		地域のデザイン		素描		※選択①		美術史																					
3年 ITデザイン	現代文B		古典B		日本史B		化学基礎		コミュニケーション英語Ⅲ		体育		数学Ⅱ・B		アルゴリズムとプログラム		データベース		情報システム実習		総合 LH											
	数学Ⅱ		素描		美術史		※選択②		鑑賞研究																							

※選択①・②(デザイン) 絵画・ビジュアルデザイン・クラフトデザイン・映像表現

は専門科目

鯖江高校における探究学習

地域との協働を柱に、探究科・普通科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発

育成すべき生徒像

- ①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる生徒
- ②地域の伝統や文化を継承し、新たなことへのチャレンジ精神をもつ生徒
- ③多様な価値観を共有し、あらゆる人々を包摂する社会を形成する生徒
- ④持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する生徒

身につけさせたい資質・能力

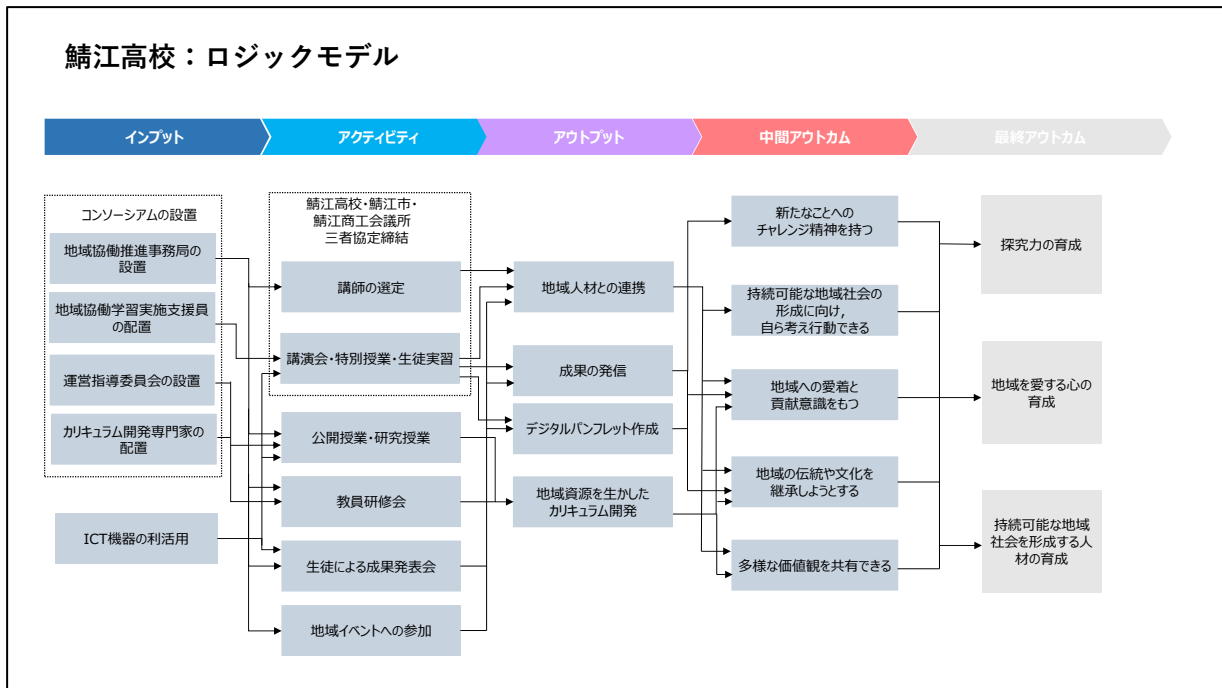
- ①知的好奇心をもち、何事にも疑問を発見し、それを解決したいと思う態度
- ②多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力
- ③他者に共感し、協調して問題解決を図る力
- ④目標の達成に向けて計画を立て行動する力

	探究科	普通科
1年	「探究」 < 1単位 > 探究学習の基礎段階 ・探究学習のスキル習得 ・探究課題の設定	「総合的な探究の時間」 < 1単位 > 探究学習の基礎段階 ・探究学習のスキル習得 ・新聞記事づくり ・鯖江についての学習
2年	「探究」 < 2単位 > 探究学習の実施 ・地域との協働 ・大学との連携 ・中間報告 ・探究学習の成果発表	「総合的な探究の時間」 < 1単位 > SDGsに関する探究学習の実施 ・地域との協働 ・中間報告 ・探究学習の成果発表
3年	「探究」 < 2単位 > 探究学習のまとめ・発展 ・研究収録の作成	「総合的な探究の時間」 < 1単位 > 自分の進路に関する探究学習

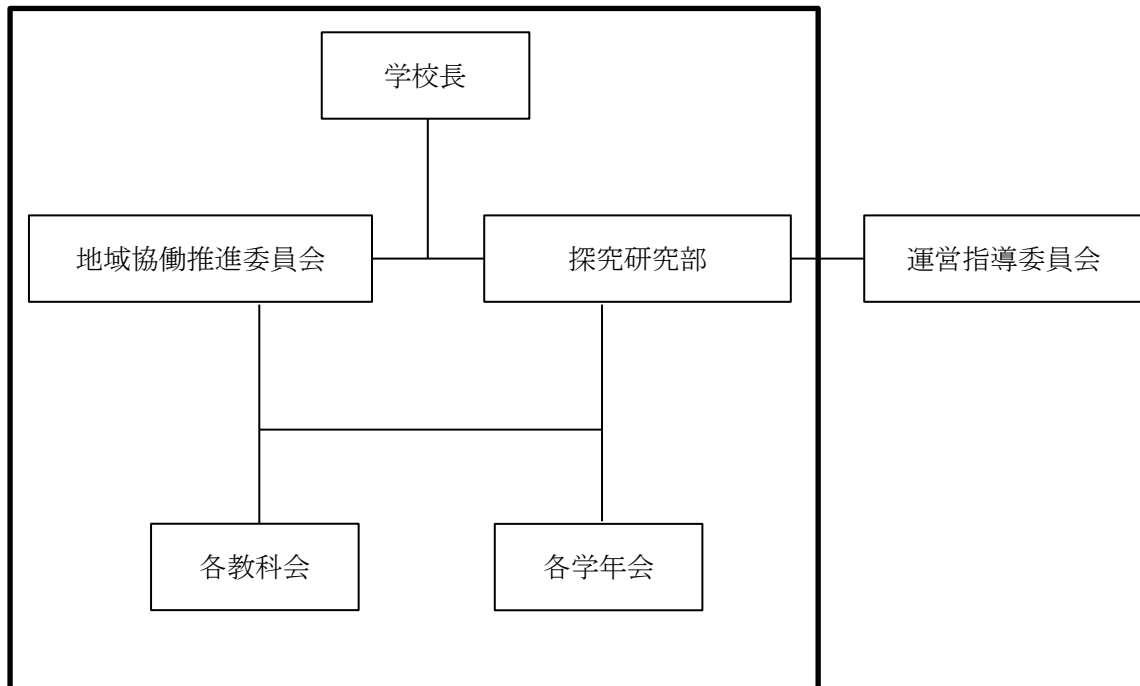
その他

- 相互連携協定を活用し、地域の関係機関や大学等と連携した探究学習を実施
- フィールドワークを活用した探究学習を実施

研究開発のロジックモデル



地域協働事業組織図



研究開発報告（文部科学省提出書類より抜粋）

研究開発完了報告書

1 事業の実施期間

2019年5月30日（契約締結日）～ 2022年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立鯖江高等学校

学校長名 浅井 裕規

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する
市民の育成

4 研究開発概要

本校は平成29年度より、鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、「総合的な学習の時間」だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を行い、一定の成果を上げることができた。それに伴い市役所・NPO・同窓会などの市民との連携を強化し、これまでに様々な取組みを行ってきた。

これらの活動をもとにして、本事業の地域魅力化型への参加を申請し、令和元年度に本事業の指定を受けることとなった。本事業により地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきをさらに強め、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し、地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう、取り組んできた。

その取組みの一環として、令和元年6月に鯖江市、鯖江商工会議所、鯖江高校で三者連携協定を結び、本校の教育活動に地域の方々に深く関わっていただける体制を作ることができた。この連携により、地域から様々な方に教育活動に参加していただくことができ、より広く、より深い教育活動を行うことが可能となった。

これらのことを踏まえ本研究開発では令和元年度に引き続き、①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する、②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する、③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す、という3つの目的を設定した。さらに、育成を目指す地域人材像として、①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化を継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民、という4つを設定した。

このような地域人材を育成するため、①多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力、②他者に共感し協調して問題解決を図る力、③目標の達成に向けて計画を立て行動する力、といった3つの具体的能力を育成することを目標に、本研究開発を実施してきた。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・

開設していない

- ・教育課程の特例の活用 活用している ・

活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長	地域研究の専門家からの外部評価
田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長	地元経済界からの外部評価
田畑 雅人	鯖江市総務部長	地元行政からの外部評価
澤 和広	鯖江市中学校長会長	地元中学校からの外部評価
齋藤 多久馬	自治医科大学名誉教授	地元関係団体からの外部評価

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
鯖江市役所	佐々木勝久
福井経済同友会	江守康昌・林正博
金沢大学地域創造学類	佐川哲也
福井大学教職大学院	松木健一
福井県立大学	進士五十八
鯖江市中学校長会	澤和広
福井新聞社	吉田真士
NPO 法人エルコミュニティ	竹部美樹
鯖江高校同窓会	久保田治裕
福井県教育委員会	豊北欽一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村 優	福井大学教職員大学 准教授	雇用関係なし
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	竹部 美樹	NPO法人 エルコミュニティ 代表	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアムとの連携	2		1	5			4	3	2		1	2

(2) 実績の説明

令和元年度に鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高等学校で三者連携協定を締結しており、教育活動の様々な場面でサポートしていただいている。また必要に応じて打ち合わせを行い、連携を密にとっている。また鯖江市や鯖江商工会議所を通じて、別の団体も紹介していただき、本校の教育活動に協力していただいた。

また令和2年度には仁愛大学と新たに連携協定を結び、本校の探究活動に深く関わっていただき、本年度は何度も大学の教員に探究活動の指導をしていただき、充実した探究活動を行うことができた。また仁愛大学を通して他校との交流も行うことができるようになり、今年度は他校の生徒の刺激を受けながら探究活動が行え、多くの人に対して研究発表を行うことができた。

具体的な活動としては下記のものあげられる。

4月 鯖江市SDGs推進センター、丹南ケーブルテレビとの打合せ

普通科2年生の総合的な探究の時間のテーマ「鯖江市SDGsプロジェクト」の取組みへの協力体制や支援の仕方などについて、打ち合わせを行った。

SDGs推進センターには鯖江市のSDGsの取組みについて講演を依頼し、継続的に生徒の探究活動に関わってもらうことを確認した。

丹南ケーブルテレビには、生徒が企画するSDGs啓発動画の作成に関して、指導や助言とともに、動画作成の技術的な面のサポートをしていただくことを確認した。

4月 仁愛大学との打合せ

生徒の探究活動の指導をしていただくために、各学年・学科に合わせた運営の方法などについて協議し、年間を通して本校の探究活動を全面的にサポートしていただくことを確認した。

4月30日には探究科1年で、5月6日には探究科2年で探究活動について、大学の教員に来校していただき、特別授業を実施していただいた。

6月 SDGs講演会の実施

昨年度の第2回運営指導委員会で話題にあがった環境活動家の露木志奈氏について、同氏をお招きして、2年生の探究活動の役に立つように、講演会を行った。

7月 教員研修会の実施

例年実施している講演会について、今年度は地元で活躍している株式会社「わどう」代表取締役の山岸充氏を講師として、鯖江市の取組みや、地元企業の活動などについて指導していただく教員研修を実施した。

7月 鯖江市の企業との交流会の実施

昨年度に引き続き、探究科1年生が鯖江市内で活躍する企業の方々と直接交流する研修会を実施するため、鯖江商工会議所と連絡・調整・運営を行った。

また鯖江商工会議所と鯖江高校との今後の協力体制や支援の仕方についても打ち合わせを行った。

- 7月 福井新聞社の記者による特別授業の実施
普通科1年生の総合的な探究の時間で実施する「新聞記事の作成」について、今年度も福井新聞社の記者を講師として特別授業を計画し、実施した。
- 7月 ワーク・ライフ・バランス研修会の実施
株式会社 For Smile 代表取締役の加藤裕美氏を講師として、ワーク・ライフ・バランス研修会を計画・運営した。本校からは希望する9名の生徒が参加した。
- 7月 明治大学との打合せ
明治大学の創始者の一人が鯖江市出身というつながりで、鯖江市は明治大学と連携協定を締結しており、明治大学と鯖江高校が協働で活動できないかを検討するため、明治大学、鯖江市、鯖江高等学校をオンラインで接続し、打ち合わせを行った。今後とも引き続き打ち合わせを実施していくことを確認した。
- 10月 株式会社「わどう」山岸充氏との打合せ
山岸氏の紹介で「マイプロジェクト」の説明および生徒の参加についての依頼を受け、今後の活動方法などについて打ち合わせを行った。
- 10月 鯖江市との打合せ
地域との協働による高等学校教育改革推進事業が今年度で終了するにあたり、今後の鯖江市との協力体制について打ち合わせを行った。今後はこれまで以上に連携を密にとり、協力していくことを確認した。
- 10月 鯖江市SDGs探究プロジェクトの実施
普通科2年生の「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の実施にあたって、鯖江市、鯖江商工会議所をはじめ、鯖江市内の多くの企業、団体に協力をいただき、生徒が関係者と直接交流をしてインタビューや企業訪問ができるように、企画・運営を行った。
- 10月 仁愛大学との打合せ
現在の探究活動の状況や、今後の進め方や発表会の実施などについて、オンラインで打ち合わせを行った。
- 11月 探究科2年中間発表会の実施
探究科2年中間発表会について、仁愛大学から2名の助言者に来校していただき、中間発表会を行った。なお、この発表会は公開授業として、他校の教員にも参加していただき、意見や感想をいただいた。
- 11月 普通科2年中間発表会の実施
普通科2年中間発表会について、鯖江市、鯖江商工会議所から6名の助言者に来校していただき、中間発表会を行った。なお、この発表会は地域との協働による高等学校推進事業の公開授業として、他校の教員にも参加していただき、意見や感想をいただいた。
- 11月 第1回運営指導委員会
運営指導委員5名に来校していただき、実施した。普通科2年中間発表会の参観した後、今年度のこれまでの取組みについて協議をし、運営指導委員および県教育委員会から指導・助言をいただいた。

1 2月 福井テレビとの打合せ

鯖江市の仲介により、福井テレビが本校の探究活動を取り上げ、環境問題に関する番組を制作することとなった。現在、普通科2年生が取り組んでいる探究活動について、今後の活動方針などについて検討した。

1 2月 眼育トレーニング研修会の実施

鯖江市が取り組んでいる眼育について、関係者に来校していただき、普通科2年生で眼育を取り上げているグループに対してビジョントレーニングなどを体験する研修会を実施した。

2月 SDG s 推進センターとの打合せ

SDG s 推進センターと今後の活動などについて打ち合わせを行った。

3月 鯖江市との打合せ

鯖江市と今後の活動などについて打ち合わせを行った。

3月 鯖江市SDG s 探究プロジェクト実践活動報告会の実施

普通科2年生「鯖江市SDG s 探究プロジェクト」について、鯖江市、鯖江商工会議所から8名の助言者に来校していただき、実践活動報告会を行った。なお、この報告会は地域との協働による高等学校推進事業の公開授業として、他校の教員にも参加していただき、意見や感想をいただいた。

通年 関係者と生徒の交流について

地域との連携に関して、関係団体や企業との連絡・調整、運営をした。主な活動内容は、探究活動に関する企業の協力、企業訪問、インタビューなど。

1 0 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域との協働による活動	2	1	2	5		1	1	4	3		2	1

(2) 実績の説明

- ・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

①探究科1年での科目「探究」の活動について

昨年度の探究科1年の活動実績を踏まえ、今年度は内容を一部変更して実施した。

まず、仁愛大学との連携により、4月30日に仁愛大学の西出和彦教授にお越しいただき、探究研究とはどのようなものかを詳しく説明していただき、講義の後、「エッグドロップ」に取り組みせ、探究活動の簡単な実践を体験させた。次に5月7日には西出教授より「問いの立て方」について講義をしていただき、実際に探究活動に取り掛かることができるよう、指導していただいた。

1学期の活動は昨年度と同様、まず探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んだ。その後、前年度からの課題として、「1年次から問いの設定、調査、分析、プレゼンテーションといった一連の流れを体験させた方がよい」ということがあり、ミニ課題研究に取りかかった。

7月15日には、昨年度と同様に「鯖江市の企業との交流会」を実施し、身近な鯖江市について知り、直接企業の担当者と交流することで理解を深め、今後の探究活動に活かしていけるようにした。

2学期からはそれぞれのテーマに合わせて探究活動を進めた。テーマや内容に合わせて鯖江市や商工会議所を通じて、地元企業や団体の協力を得て、それぞれの探究活動を行ってきた。

12月17日には、今年度もエコネットさばえから、カードゲーム「2030SDGs」の公認ファシリテーターの榎原秀典氏に来ていただき、カードゲームを通して、自分の住む社会や生活に置き換えて考え、追究したい課題を見つけさせる活動を行い、SDGsを意識した探究活動ができるようにした。

3学期末には昨年度と同様に、探究科合宿を行い、その中で今回のミニ探究研究の発表会を実施した。

②普通科1年での「総合的な探究の時間」の活動について

基本的に昨年度実施してきたカリキュラムを継承し、本年度も「新聞記事づくり」を通して、各自の興味関心および希望進路に応じた探究活動を行った。

まず1学期は探究科と同様、探究活動の基礎的なスキルの習得および意欲の向上を目指して取り組んできた。その後、昨年度は11月に実施した福井新聞社の記者による特別授業を、今年度は前倒しして7月に実施をして、早い段階で探究活動に必要な情報の取り扱い方や記事の書き方などを指導していただいた。

2学期は最初から新聞記事づくりに取り掛かることができ、昨年度よりも時間をかけて活動を進めることができた。まずは各自の興味関心、コースに応じた希望進路をもとにテーマを検討し、様々な情報を収集や調査を行い、それらを集約して新聞記事としてまとめ、他の生徒に発表することで、課題研究の全体の流れを実際に体験できるようにしている。この活動では、必ずテーマに関係する方に直接インタビューする活動をいれており、鯖江市、鯖江商工会議所およびコンソーシアムに協力をしていただいてインタビューに応じていただける方を紹介していただき、多くの生徒が自分の希望する方々に直接インタビューを行うことができた。なおインタビューをしていただける方の紹介はするが、日時や内容などの交渉は生徒自身に行わせて、インタビューなども含めて、自分自身で新聞記事を完成させるように取り組ませた。インタビューをしていただいた方の中には、完成した新聞記事をぜひ送ってほしいとの依頼もあり、この活動に強い関心をもって協力をしていただいた。

③探究科2年での科目「探究」の活動について

探究科2年生は今年度が一期生であり、初めての2単位での探究活動に対応できるよう、試行錯誤しながら計画を進めていった。

まず、探究科としての活動を充実させるため、「探究」の時間には国語、社会、数学、理科、英語から1名ずつ計5名の専属の教員を配置し、各生徒の研究テーマを考慮して各教員に生徒を割り振って、年間をとおして5名の教員が主導して探究活動を行ってきた。それぞれの活動内容に合わせて、各教員でコンソーシアムなどと連携を取り、共同研究、インタビュー、企業訪問などを随時実施してきた。

全体の活動では、仁愛大学に協力をしていただき、特別授業や他校を交えての研修会の企画、校内発表会での助言者など、様々な場面で生徒の活動を指導していただいた。

④普通科2年での「総合的な探究の時間」の活動について

今年度もコロナウィルス感染の影響はあったものの、昨年度より活動の制限が緩和されたため、新たに年間の計画を見直し、今年度は鯖江市が主に取り組んでいるSDGsの6つのテーマに沿って、興味関心のある生徒同士でグループを組み、探究学習を実施する「鯖江市SDGs探究プロジェクト」を企画した。

各テーマ固有の現状・課題について調べ、それを解決するための手段について、鯖江市や地域企業へのインタビューなどを通して、問題を自分事としてとらえ、課題について探究していった。

まず4月30日にさばえSDGs推進センターと丹南ケーブルテレビの方に来ていただき、鯖江市のSDGsの取組みの説明と、SDGsを推進する動画の作成について説明をしていただき、1年間の活動内容を生徒に認識させ、活動をスタートさせた。

10月には協力していただいた団体、企業の方々に来ていただいたり、各企業に直接訪問してインタビュー活動を一斉に行う行事を企画した。

11月には中間発表会を実施し、鯖江市、さばえSDGs推進センターから助言者として来ていただき、評価・ご助言をいただいた。

2月には近隣の惜陰小学校との交流会を実施し、環境問題をテーマにしたグループが、小学校のこどもたちにSDGsについてプレゼンテーションを行った。

また、希望者による動画作成チームをつくり、丹南ケーブルテレビの協力を得て、鯖江市のSDGs推進活動をアピールするPR動画の作成を行った。

⑤普通科3年での「総合的な探究の時間」の活動について

3年次では、これまでの探究活動の集大成として、プレゼンテーション能力を高めることを主な目的とした探究活動を行った。1年次から総合的な探究の時間で、地域と協働した活動など、様々な探究活動をおこない、その成果を発表してきた。3年次ではこれまでの探究活動の経験をもとに、各個人の希望進路にあわせて、各自でテーマを設定し、より効果的なプレゼンテーションが行えるよう、発表方法も自由にできるようにした。

内容が多岐にわたり、それをクラス内で発表することで、情報が共有され、他の生徒たちにも影響を与えることができた。

⑥総合的な探究の時間以外での地域人材活用について

今年度も新型コロナウイルスの影響により、昨年度から計画していた外部人材を活用した授業ができない状況が続く、改めて可能な活動を模索してきた。今年度の地域人材を活用した授業などは下記のとおりである。

○音楽の授業での人形浄瑠璃体験授業

6月7日に選択音楽を受講する3年生の授業で、鯖江市人形浄瑠璃「近松座」から、大橋國利氏をはじめ団員の方々をお招きして、昨年度に引き続き人形浄瑠璃の体験活動を行った。

○人形浄瑠璃発表会

6月7日に引き続き、何度か人形浄瑠璃の体験授業を行い、今回その成果を発表した。地元の伝統文化を直接体験し、発表できたことで、生徒は達成感を感じたとともに、今後の音楽活動にも生かしていきたいという意欲もわいていた。

○エシカル消費特別授業

11月10日に探究科2年の英語の授業で、鯖江市役所から山田眞美子氏と森川瑞代氏

をお招きして、エシカル消費について特別授業を行った。英語の教科書“What Is the True Meaning of Mottainai?”という単元で学んだことに対する考えを深めると同時に、世界規模の問題と身近な問題のつながりについて考え、教科書の内容が現在実社会でどのような広がりを見せているかについて学んだ。

○日華化学特別授業

11月17日に3年生の化学の授業で、日華化学株式会社より松田光夫氏をお招きして「高分子」に関する特別授業を行った。化学の教科書で扱われている高分子が、身近なものに応用されている事例をあげ、その特徴などを、詳しく説明をしていただいた。

○放射線特別授業

12月7日に3年の生物の授業で、環境教育の一つとして「放射線」に関する特別授業を行った。日本原子力発電株式会社より佐藤穰氏と池田龍子氏をお招きし、放射線について正しい知識と興味を持てるように、実験と観察を行いながら説明していただいた。

○消費者教育 出前講座

2月21日に探究科1年生の現代社会および家庭基礎の授業で、鯖江市消費生活センターより清水優子氏、鯖江市市民相談課より山田眞美子氏をお招きして、消費者教育出前講座を行った。消費にまつわる様々な問題点や相談内容などを教えていただき、今後、様々なトラブルに巻き込まれないよう指導やアドバイスをいただいた。

○その他、コロナウィルス感染拡大の影響により中止になった授業

- ・生分解性放射線実験樹脂を利用した授業（3年生物）
- ・福井銀行による資産形成や利率について（3年数学）

⑦授業改善のための教員研修会について

7月1日に株式会社「わどう」代表取締役の山岸充氏を講師としてお招きし、教員研修を行った。昨年度に引き続き、「生徒たちに地域との協働活動を指導していくためには、教員自身が地域についてもっと知るべきである」という考えで、鯖江市の現状や様々な取組みなどを詳しく説明していただき、教員全体の地域協働に対する意識を高めた。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

地域人材や地域資源などを活用した探究活動を、各学年での「総合的な探究の時間」で計画的に実施した。

また、各教科での内容と必要に応じて、地域との協働により特別授業などを実施した。

- ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて

探究科2年次で探究を取り入れた教科の授業を実施し、総合的な探究の時間や教科を横断した授業も実施した。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

昨年度より校務分掌として「探究研究部」を新設し、地域協働活動・探究活動・学力向上・教員研修などの業務を教員6名で担当した。

- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）
地域協働推進委員会（校長，教頭，探究研究部長，教務部長，進路指導部長，各教科主任，定時制教頭）を設置し，探究研究部を中心として全教員で研究開発を推進している。
- ・学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて
地域協働推進委員会，運営指導委員会などでの進捗状況を把握する。
探究研究部との情報共有を行う。
- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて
鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校相互連携協定の連絡協議会での進捗状況の確認および指導・助言・提案などを行う。また，各行事での企画・運営に関して指導・助言などをいただく。
- ・運営指導委員会等，取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について
運営指導委員会を2回実施，指導・助言を受ける。
- ・類型毎の趣旨に応じた取組みについて（地域魅力化型の活動として）
音楽の授業で人形浄瑠璃の体験をし，鯖江の歴史や文化を理解した。
鯖江市の企業との交流会を実施し，地元企業の取組みや魅力を知った。
鯖江市SDGs探究プロジェクトを通して，地元企業の取組みや魅力を知った。
日華化学特別授業を実施し，地元企業での取組みや魅力を知った。
眼育トレーニングの体験を通して，めがねのまち鯖江の取組みを知った。
- ・成果の普及方法・実績について
地域協働ニュース第1号～第21号を作成した。
広報誌を作成し，鯖江市の中学生に配布し，鯖江市役所にも置かせていただいた。
各行事でのマスコミへの取材要請，及び対応を行った。

1.1 目標の進捗状況，成果，評価

本事業の成果目標として，「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を，生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い，「卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする」と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケートの結果から次のようなことがわかった。

	アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				2年生の割合(%)	
		2019年	2020年	2021年	前年度との差	2021年度	1年次との差
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8	68.8	64.6	-4.2	64.8	0.35
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8	57.5	58.4	0.9	59.5	6.15
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7	90.2	93.1	2.9	91.1	4.16
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1	90.2	90.2	0	88.7	0.13
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6	72.4	67.7	-4.7	66.4	-2.77
行動力	目標を設定し、確実に行動することができる	65.1	63.0	65.3	2.3	66.0	8.68
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2	64.2	64.1	-0.1	63.2	6.24
	自主的に調べものや取材を行う	60.4	58.3	61.2	2.9	64.0	14.96
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2	30.9	34.7	3.8	40.9	13.22

○ 最終目標である「卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする」には到達できなかった。3年間の推移をみると、全体の割合はあまり変化しておらず、鯖江高校では本事業以前から地域協働の取り組みが行われており、これが安定した数値として表れていると考えられる。

○ 全体の割合はあまり変化が見られないが、個人の伸びをみると、昨年度同様2年生の1年次からの伸びが顕著であり、特に行動力の2項目では2桁の伸び率を示している。これは3年間の探究活動の中で、最も重要な2年次の探究活動の成果の表れであり、地域と協働した活動が充実し、生徒が自ら進んで意欲的に探究活動に取り組んできたことの表れであると考えられる。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

○ 本事業は今年度で終了するが、事業終了後も地域との連携のよりよい在り方について、今後とも検討していく必要がある。鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校との三者連携協定、および仁愛大学との高大連携・高大接続に関する連携協定は今後も継続していくこととなっており、来年度に向けて、それぞれですでに協議を進めている。

○ 来年度、全学年で7クラスとなり生徒数がさらに増加する。そのため全員が一斉に探究活動することがさらに難しくなる。現在のカリキュラムを見直し、現在よりも活動しやすい内容や方法を検討し、改善できる部分は改善していく必要がある。

○ 総合的な探究の時間の3年間のカリキュラムは一通り確立してきたが、これまではコロナウ

イルスの影響もあり活動に制限があったので、今後は状況がさらに変化していく。今後はその変化や状況に応じて、調整していかなければならない。

- 年度が変われば学校も地域の人も替わるため、誰もが安定した運営ができるように、連携方法の確立やマニュアルの作成などをしていく必要がある。

目標設定シート（文部科学省提出書類）

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)	
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする。表現力は作成した資料やプレゼンテーション、協調力は毎回の授業における振り返り、行動力はフィールドワークや発表会など学校外の活動への参加回数、などによって評価する。							
a	本事業対象生徒:		67.7	66.2	66.6	85	単位: %
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方: 具体的能力の定着状況の測定を毎年度末ごとに実施する。初年度の2019年度末では定着状況を50%とし、翌年度の2020年度末では前年度比30%増加の65%とする。最終年度の2021年度末では引き続き30%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
高等学校卒業後の地元就職率を100%とする。また、将来地元で就職を希望する生徒の割合を85%以上とする。							
b	本事業対象生徒:		90	100	100	85	単位: %
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方: 高等学校卒業後の民間企業への就職は、地元民間企業への就職活動を最優先に行い、就職率を100%とする。また、地元就職を希望する生徒の割合を初年度の2019年度末では60%とし、翌年度の2020年度末では前年度比20%増加の72%とする。最終年度の2021年度末では引き続き20%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)	
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
生徒による研究や実践の中間発表と最終発表を、地域及び教育関係機関に向けて4回行う。							
a			2	2	5	4	単位: 回
目標設定の考え方: 初年度は2回、次年度は3回、最終年度は4回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
県内・県外との合同発表会・研究発表会などへの参加回数を12回とする。							
b			2	3	6	12	単位: 回
目標設定の考え方: 初年度は3回、次年度は6回、最終年度は12回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）							
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2020年度)	
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
地域の活動に参加した本校生徒の延べ人数を600名とする。							
a			60	0	762	600	単位: 延べ人数
目標設定の考え方: 地域の活動に参加した延べ人数を初年度は150名、次年度は300名、最終年度は600名とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を促す。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	539	551	522	589	660
本事業対象生徒数			522	589	660
本事業対象外生徒数			0	0	0

今年度の具体的な取組み

探究科1年「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和3年度 第1学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立鯖江高等学校 全日制 課程 探究 科

名 称	探究	単 位 数	1	
月日	学 習 活 動		授業時数 (分)	学習形態
4/16	探究学習オリエンテーション		50	一斉受講
4/30	エッグチャレンジ		50	グループ活動
5/7	問いの立て方		50	一斉受講
6/18	ブレインストーミングとKJ法		50	グループ活動
6/25	グループでの問いの設定		50	グループ活動
7/12	先行研究を調べよう		50	グループ活動
7/13	進路学習2h		100	一斉活動
7/15	鯖江市の企業との交流会		150	グループ活動
9/15	進路講演会		100	一斉受講
9/17	情報収集をしよう①		50	グループ活動
9/24	情報収集をしよう②		50	グループ活動
10/1	情報収集をしよう③		50	グループ活動
10/8	研究計画を立てよう①		50	グループ活動
10/15	研究計画を立てよう②		50	グループ活動
10/22	大学訪問		150	グループ活動
11/5	課題研究①		50	グループ活動
11/12	課題研究②		50	グループ活動
11/19	課題研究③		50	グループ活動
11/26	課題研究④		50	グループ活動
12/3	課題研究⑤		50	グループ活動
12/17	SDGsカードゲーム		150	グループ活動
1/14	課題研究⑥		50	グループ活動
1/21	課題研究⑦		50	グループ活動
2/4	課題研究⑧		50	グループ活動
2/18	発表資料づくり①		50	グループ活動
2/25	発表資料づくり②		50	グループ活動
3/17	探究学習発表会		50	グループ活動
			計 1750分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
探究学習の基礎スキルの習得	<p>はじめに総合的な探究の時間のオリエンテーションやエッグドロップの実験を実施し、探究活動を行う仲間づくりを行った。</p> <p>探究学習に必要な主な基礎スキルとして、問いの立て方対話やナンバリング・ラベリングを意識した話し方、ブレインストーミングでアイディアの出し方、KJ法やウェビングマップを活用したアイディアのまとめ方を学習した。</p> <p>さらに、先行研究の調べ方、インターネットや書籍を活用した情報収集方法などについて学習し、今後も継続する探究学習の基礎スキルを習得させていった。</p> <p>ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れたことで、生徒たちは仲間と楽しく交流しながら基礎スキルを習得することができた。</p>
課題研究の「テーマ」と「問い」の決定	<p>前年度からの課題として、「1年次から問いの設定、調査、分析、プレゼンテーションといった一連の流れを体験させた方がよい」ということがあがり、1年次から課題研究を実施した。生徒はグループや個人で意欲的に課題研究に取り組んでいたが、時間的・金銭的な制約などもあり、完成度には差が大きくなってしまった面もある。</p> <p>次年度は、課題研究に取り組む前に、実験方法や社会調査の方法などについての学習を取り入れ、課題研究の完成度を高めることで、2年次以降に本格化する課題研究につなげていくことも検討していく。</p>

探究科2年「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和3年度 第 2 学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 探究 科

名 称	探究	単 位 数	2	
月日	学 習 活 動	授業時数 (分)	学習形態	
4/15	課題研究に関するオリエンテーション	100	個人・グループ活動	
5/6	実験方法と調査方法に関する特別講義	100	一斉受講	
5/20	情報の収集①	100	個人・グループ活動	
5/27	鯖江市SDGsの調べ学習①	50	グループ活動	
6/3	情報の収集②	100	個人・グループ活動	
6/10	鯖江市SDGsの調べ学習②	50	グループ活動	
6/11	進路講演会	50	一斉受講	
6/17	情報の収集③	50	個人・グループ活動	
6/24	情報の収集④	100	個人・グループ活動	
7/8	情報の整理・分析①	50	個人・グループ活動	
7/12	小論文1h, 情報の整理・分析②	150	個人・グループ活動	
7/15	小論文1h, 情報の整理・分析③	150	個人・グループ活動	
7/16	情報モラル等講演会	50	一斉受講	
7/31	高校生課題研究ワークショップ	200	個人・グループ活動	
9/9	鯖江市SDGsのインタビューの準備①	50	グループ活動	
9/15	鯖江市SDGsのインタビューの準備②	50	グループ活動	
9/16	鯖江市SDGsのインタビュー	100	グループ活動	
9/30	課題研究中間発表会の準備①	100	個人・グループ活動	
10/7	課題研究中間発表会の準備②	100	個人・グループ活動	
10/18	鯖江市SDGsの英語の発表原稿作成①	300	グループ活動	
10/21	鯖江市SDGsの英語の発表原稿作成②	50	グループ活動	
10/28	課題研究中間発表会の準備③	50	個人・グループ活動	
11/2	課題研究中間発表会	100	個人・グループ活動	
11/11	鯖江市SDGsの英語での発表練習①	100	グループ活動	
11/18	鯖江市SDGsの英語での発表練習②	100	グループ活動	
12/1	シンガポールの学生とのオンライン交流	250	グループ活動	
12/9	課題研究とオンライン交流の振り返り	100	個人・グループ活動	
1/13	課題研究最終発表会の準備①	100	個人・グループ活動	
1/20	課題研究最終発表会の準備②	100	個人・グループ活動	
2/3	課題研究最終発表会の準備③	100	個人・グループ活動	
2/10	課題研究最終発表会の準備④	100	個人・グループ活動	
2/19	課題研究最終発表会	350	個人・グループ活動	
		計		
		3500分		

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
課題研究	<p>生徒が自分の興味や関心に沿って設定した「問い」について、1年間かけて課題研究を個人またはグループで実施した。</p> <p>テーマによって国語（人文・教育），社会（地域・経済），数学（医療），理科（自然科学），英語（国際・環境）に分類し、各教科担任の指導のもと、公共機関や民間企業とも連携しながら情報の収集や整理，分析を行った。</p> <p>高校生課題研究ワークショップでは他校の生徒と交流し、日頃の課題研究で感じていることや悩みを共有しながら、課題研究の意義を再確認した。</p> <p>高大接続改革の一環として、大学の教員から実験方法や調査方法、発表方法について学んだほか、中間発表会ではグループ毎に助言をいただいて研究の振り返りを行った。最終発表会では他校の生徒を交えて1年間の成果発表を行い、大学の教員の助言のもと、高校生同士の意見交換を行った。</p> <p>課題研究を通して、生徒たちは答えが無い（複数ある）ものに挑戦することの難しさと楽しさを実感できたようである。その過程で、社会的・学術的な課題を発見する力や、課題を解決するための計画立案や実行力、研究の成果を相手に論理的に説明する思考力や表現力が身に付いたように感じる。</p>
鯖江市SDGs（シンガポールの学生とのオンライン交流）	<p>鯖江市のSDGsの達成に向けた取り組みについて、7つのテーマに分かれてグループで調査した。タブレットの活用をはじめ、関連機関へのインタビューを実施した。</p> <p>調査した内容を英語に翻訳し、シンガポールの学生に英語でプレゼンテーションを行った。国際目標であるSDGsについて意見交換を行うことで、鯖江市の魅力を確認するとともに、多様な文化や考え方に触れ、国際コミュニケーション力を高めた。</p>

普通科1年「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和3年度 第 1 学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 普通 科

名 称	総合的な探究の時間	単 位 数	1	
月日	学 習 活 動		授業時数 (分)	学習形態
4/16	オリエンテーション		50	一斉受講
4/30	コミュニケーションと対話について		50	グループ活動
5/7	ブレインストーミングとKJ法		50	グループ活動
6/11	進路適性検査		50	一斉活動
6/18	ウェビングマップ		50	グループ活動
6/25	進路学習（20年後の自分を考える）		50	個人活動
7/12	進路学習（働くことについて考える）		50	個人活動
7/13	進路学習 2 h		100	一斉活動
7/15	新聞記者による講義（新聞記事づくり講座）		100	一斉受講
7/16	情報モラル講演会		50	一斉受講
9/15	進路講演会		100	一斉受講
9/17	新聞記事づくり（①テーマ決め）		50	グループ活動
9/24	インタビューについて		50	グループ活動
10/1	新聞記事づくり（②インタビューの質問を考える）		50	グループ活動
10/8	新聞記事づくり（③調べ作業）		50	グループ活動
10/15	新聞記事づくり（④質問の練り直し）		50	グループ活動
10/22	大学訪問		150	一斉活動
11/5	新聞記事づくり（⑤情報収集）		50	グループ活動
11/10	防犯教室		50	一斉受講
11/12	新聞記事づくり（⑤情報収集）		50	グループ活動
11/19	新聞記事づくり（⑥構成について）		50	グループ活動
11/26	新聞記事づくり（⑦構成の検討）		50	グループ活動
12/3	新聞記事づくり（⑦構成の検討）		50	グループ活動
1/14	新聞記事づくり（⑧記事の作成）		50	グループ活動
1/21	新聞記事づくり（⑧記事の作成）		50	グループ活動
2/4	新聞記事づくり（⑧記事の作成）		50	グループ活動
2/18	新聞記事づくり（⑨発表準備とグループ発表）		50	グループ活動
2/25	新聞記事づくり（⑩クラス発表）		50	グループ活動
3/17	新聞記事づくり（⑪振り返り）		100	一斉活動
			計	
			1750分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
探究学習の基礎スキルの習得	<p>はじめにオリエンテーションを実施し、エンカウンターを通して学び合う雰囲気づくりを行った。</p> <p>探究的な学習に必要な基礎スキルとして、対話やナンバリング・ラベリングを意識した話し方、ブレインストーミングによるアイデアの出し方、KJ法やウェビングマップを活用したアイデアのまとめ方を学習した。</p> <p>ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れたことで、生徒たちは仲間と楽しく交流しながら基礎スキルを習得することができた。</p>
新聞記事づくり	<p>自分の興味関心のある職業について、個人で新聞記事を作成した。はじめに、実際に新聞記事を書いている福井新聞社の記者から、読み手に伝えるための文章の書き方や、インタビューの方法などを学んだ。テーマの設定、インタビュー質問の作成、情報収集（インタビューなど）を経て新聞記事を完成させ、クラス内のグループで読み合いを実施し、相互評価および振り返りを実施した。</p> <p>新聞記事づくりを通して、課題発見能力、進路意識の向上が図れたほか、文章表現能力や情報収集能力の向上が見られた。対面でのインタビューが困難な場合は、オンラインやメールを活用してインタビューを実施したが、インタビュー相手が見つからなかった生徒は、調べ学習で終わってしまうものもあった。</p>

普通科2年「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和3年度 第 2 学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 普通 科

名 称		総合的な探究の時間	単 位 数	1
月日	学 習 活 動		授業時数 (分)	学習形態
4/16	オリエンテーション		50	一斉受講
4/30	ゲスト講師による講義（鯖江市のSDGsの取り組みを知る）		50	一斉受講
5/7	調べ学習・資料作成		50	グループ活動
6/11	進路講演会		100	一斉受講
6/18	SDGs 講演会		50	一斉受講
6/25	探究課題の設定/動画作成計画・調べ学習		50	グループ活動
7/12	調べ学習		100	グループ活動
7/15	調べ学習		100	グループ活動
9/17	課題研究（課題の絞り込み）/動画作成準備		50	グループ活動
9/24	インタビュー準備		50	グループ活動
10/1	中間発表用資料作成		50	グループ活動
10/8	中間発表用資料作成		50	グループ活動
10/15	中間発表用資料作成・インタビュー準備		50	グループ活動
10/18	SDGs 探究プロジェクト（インタビュー・動画撮影）		150	グループ活動
10/22	大学模擬授業		150	一斉活動
11/5	中間発表会準備・資料作成		50	グループ活動
11/12	中間発表会リハーサル（クラス内発表練習）		50	グループ活動
11/19	中間発表会		100	グループ活動
11/26	中間発表会振り返り・実践活動報告会に向けての準備		50	グループ活動
12/3	資料作成・動画作成		50	グループ活動
1/14	実践活動報告会用スライド作成		50	グループ活動
1/21	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成		50	グループ活動
2/4	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成		50	グループ活動
2/18	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成		50	グループ活動
2/25	実践活動報告会リハーサル/小学生との交流活動		50	グループ活動
3/17	実践活動報告会・振り返り		100	グループ活動
			計 1750分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鯖江市のSDGsに関する探究学習 ・ 鯖江市のSDGs活動のPR動画作成（1チーム） 	<p>鯖江市が主に取り組んでいるSDGsの6つのテーマに沿って、興味関心のある生徒同士でグループを組み、探究学習を実施した。</p> <p>各テーマ固有の現状・課題について調べ、それを解決するための手段について、鯖江市役所や地域企業へのインタビューなどを通して、問題を自分事としてとらえ、課題について探究していった。11月の中間発表会では、鯖江市役所から助言者を招聘し、評価、ご助言をいただいた。</p> <p>希望者による動画作成チームは、丹南ケーブルテレビの協力を得て、鯖江市のSDGs推進活動をアピールするPR動画の作成を行った。生徒全体での撮影なども取り入れ、高校生としての視点で動画作成に取り組んだ。「地域との協働による高等学校教育改革事業」全国サミットにも参加した。</p> <p>多数のグループが一斉に活動するため、グループ格差が極力生じないように、支援していく必要がある。コロナ禍で活動が制限され、発表会の日程や実施方式が変更するなど臨機応変な対応が求められた。オンラインでの発表環境などを整えていくことが今後も必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鯖江市SDGs啓発ポスター作り/PR動画作成と実践活動報告会 	<p>中間発表を踏まえ、各テーマに沿った鯖江市のSDGsの取り組みに関する啓発ポスターや、啓発グッズ、動画作成などを作成した。</p> <p>実践活動報告会では、引き続き鯖江市役所等からゲスト講師を招聘し、評価、ご高評をいただいた。作成したポスターについては、鯖江市と連携し、鯖江市内の各施設に展示し、広く市民に公表する予定となっている。また、PR動画については、地元CATVで放映される予定である。</p>

普通科「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和3年度 第 3 学年 総合的な探究の時間 実施報告書

福井県立 鯖江 高等学校 全日制 課程 普通 学科

名 称	総合的な探究の時間	単位数	1
月日	学 習 活 動	授業時数（分）	学習形態
4/16	全体ガイダンス	50	一斉受講
4/23	テーマの検討と設定	50	個人活動
4/30	調べ学習	50	個人活動
5/7	調べ学習	50	個人活動
5/28	学校祭計画	50	グループ活動
6/11	推薦・就職希望説明会，進路学習	50	一斉受講
6/18	調べ学習・資料作成	50	個人活動
6/25	調べ学習・資料作成	50	個人活動
7/13	資料作成・発表リハーサル	100	個人活動
7/14	クラス内発表（プレゼンテーション）	150	一斉活動
7/15	プレゼンテーション振り返り・進路学習	100	一斉活動
7/16	情報モラル等講演会	50	一斉受講
7/20	学校祭計画	50	グループ活動
8/28	学校祭計画	50	グループ活動
9/10	大学入学共通テスト出願説明会・進路学習	50	一斉受講
9/15	進路学習	50	一斉活動
9/17	1学期振り返り・2学期計画	50	個人活動
9/24	コース別進路学習	50	個人活動
10/1	コース別進路学習	50	個人活動
10/8	コース別進路学習	50	個人活動
10/15	コース別進路学習	50	個人活動
10/22	消費者講演会	50	一斉受講
10/22	進路学習	50	一斉活動
10/5	コース別進路学習	50	個人活動
10/10	防犯教室	50	一斉受講
10/12	コース別進路学習	50	個人活動
10/19	コース別進路学習	50	個人活動
10/26	コース別進路学習	50	個人活動
12/3	コース別進路学習	50	個人活動
12/10	ビジネススキルアップセミナー	50	一斉受講
1/14	振り返り	50	一斉活動
		計 1750分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
課題探究	<p>3年次では、プレゼンテーション能力を高めることを主な目的とした活動を行った。1年次から総合的な探究の時間で、様々な活動をおこない、その都度発表の機会を設けてきた。今年度は、これまでの探究活動の経験をもとに、各個人の希望進路にあわせて、各自でテーマを設定し、効果的なプレゼンテーションが行えるよう、発表方法も自由にできるようにした。</p> <p>推薦入試の志望理由や面接などで直接かかわる内容のものや、純粋に興味をもって探究していく生徒など、内容が多岐にわたり、それをクラス内で発表することで、情報が共有され、他の生徒たちにも影響を与えることができた。</p> <p>一方、単なる調べ学習で終了してしまうものや、他の人に伝えるためのプレゼンテーションになっていないものもあり、プレゼンテーションの重要性を認識できていない生徒も多く、社会人として必要な能力であることを、もっと認識させる必要がある。</p>
コース別進路学習	<p>2学期以降は各自の希望進路に合わせて、コース（クラス）別に進路学習を行った。</p> <p>1学期の課題探究の活動を踏まえて、総合型選抜入試のプレゼンテーションに対応させたり、推薦入試のための面接や志望理由の内容を検討したりして、各自の将来に向けたそれぞれの取り組みを行った。</p> <p>本校の生徒は進学・就職など進路希望が多岐にわたるため、それぞれの進路希望に合わせた対応が非常に困難である。今後の活動方法や教員の対応方法などを検討していきたい。</p>

地域の方々にご協力いただいた活動

1年探究科「探究」

4月30日（金） 「課題研究とは」特別講義

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授

内容 連携協定を締結している仁愛大学の西出教授に、探究研究とはどのようなものかを詳しく解説していただき、その後「エッグドロップ」を題材にした簡単な実践活動を行い、探究学習の一連の流れを体験した。詳しくは地域協働ニュース第2号を参照。

5月7日（金） 「問いの立て方」特別講義

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授

内容 前回に引き続き、仁愛大学の西出教授に、「問いの立て方」について詳しく解説していただいた。



7月15日（木） 鯖江市の企業との交流会

交流企業 アイテック株式会社

株式会社 鯖江村田製作所

タイヨー電子株式会社

福井めがね工業株式会社

ヨシダ工業株式会社

内容 昨年度に引き続き、鯖江商工会議所のご協力により実施した。今年度は特に世界で活躍する企業や、最先端の技術を持つ企業に参加していただいた。詳しくは地域協働ニュース第7号を参照。

12月17日（金） 2030SDGsカードゲーム体験

講師 エコネットさばえ 榎原 秀典 氏（2030SDGsゲーの公認ファシリテーター）

内容 昨年度に引き続き「2030SDGsカードゲーム」の体験を通して、世界中で行われている持続可能な世界の実現の取組みとその影響について考える学習をした。詳しくは地域協働ニュース第18号を参照。

その他 鯖江市、企業などへのインタビュー、企業訪問などを随時実施。

2年探究科「探究」

5月6日（木） 実験方法と調査方法に関する特別講義

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授

同 織田 暁子 准教授

内容 仁愛大学より西出教授と織田助教授をお迎えして、西出教授より「実験方法」について、織田准教授より「調査方法」について詳しく解説していただいた。詳しくは地域協働ニュース第3号を参照。

7月31日（土） 高校生課題研究ワークショップ

講師 仁愛大学 西出 和彦 教授
同 織田 暁子 准教授
同 高野 秀晴 准教授

会場 仁愛大学

内容 仁愛大学主催の課題研究ワークショップに鯖江高校，武生高校，武生東高校の3校が参加し，合同で課題研究についての理解を深める活動を行った。詳しくは地域協働ニュース第9号を参照。

9月16日（木） 鯖江市SDGsに関するインタビュー活動

対象 鯖江市職員 他

内容 各自が研究している鯖江市のSDGsに関する内容について，一斉に鯖江市の職員にインタビュー活動を実施した。実施方法は，鯖江高校で対面で実施したものや，オンラインで実施したものもある。



11月2日（火） 課題研究中間発表会

助言者 仁愛大学 西出 和彦 教授
同 織田 暁子 准教授
同 高野 秀晴 准教授

参観者 地域協働運営指導委員 他

内容 これまでの探究活動の中間発表会を実施し，探究活動のご指導をいただいていた仁愛大学の先生方に助言をいただいた。詳しくは地域協働ニュース第12号を参照。

2月19日（土） 課題研究合同発表会

主催 仁愛大学

参加校 鯖江高校，武生高校，武生東高校

内容 仁愛大学主催の課題研究合同発表会に鯖江高校，武生高校，武生東高校の3校が参加し，これまでの成果を発表し，助言をいただいた。



その他 鯖江市，企業などへのインタビュー，企業訪問などを随時実施。

1年普通科「総合的な探究の時間」

7月15日（木） 福井新聞社の記者による特別授業

講師 福井新聞社 藪内 弘昌 氏
同 徳島 康彦 氏

内容 今年度も引き続き福井新聞社の記者による「新聞記事の書き方」について特別授業をしていただいた。

冬休み～1月 新聞記事づくりのためのインタビュー

対象 鯖江市役所, 鯖江商工会議所 他

内容 インタビューの実施に当たり, 個人で直接アポが取れない生徒に対して, 鯖江市役所および鯖江商工会議所にご協力により, 計21の関係団体を仲介していただき, インタビューを実施することができた。実施方法は, 直接訪問する場合やオンライン, メールによるものなど, コロナ禍でも実施可能な方法で実施した。



2年普通科「総合的な探究の時間」

4月16日(金) 「鯖江市SDGs探究プロジェクト」全体オリエンテーション

講師 さばえSDGs推進センター 仲倉 由紀 氏
丹南ケーブルテレビ株式会社 林 良宗 氏

内容 2年生が取り組む「鯖江市SDGs探究プロジェクト」について, 鯖江市の現状の説明と, 動画作成の概要について, 両氏から説明をしていただいた。詳しくは地域協働ニュース第1号を参照。

4月30日(金) 鯖江市のSDGsの取組みの現状を知る

講師 さばえSDGs推進センター 関本 光浩 氏
同 仲倉 由紀 氏

内容 前回に引き続き, 「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の活動をしていくにあたって, 鯖江市のSDGsの取組みの現状を詳しく説明していただいた。



6月18日(金) SDGs講演会

講師 環境活動家 露木 志奈 氏

内容 地域協働事業の本校の運営指導委員である田中謙次氏のご紹介により, 環境活動家の露木志奈氏をお招きし, SDGsに関する特別講演を実施した。詳しくは地域協働ニュース第5号を参照。

10月18日(月) 「SDGs探究プロジェクト」(インタビュー, 動画撮影)

対象 鯖江市他, 関係企業・団体・個人

内容 「SDGs探究プロジェクト」の実践活動として, 関係者と直接交流し, これまでの研究について, インタビューをして内容を深めていった。実施方法は, 鯖江高校に直接来ていただいて, 教室や体育館で交流したり, 相手先に直接訪問して, 見学をしながらインタビューするグループもあった。またコロナ下であったが, オンラインで実施することができたグループもあり, 計28の団体と交流することができた。また, 午後からは丹南ケーブルテレビのご協力により, 動画作成グループの動画撮影も行った。詳しくは地域協働ニュース第11号を参照。

1 1 月 1 9 日（金） 「鯖江市SDG s 探究プロジェクト」 中間発表会

助言者 鯖江市総務部市民活躍課 高崎 則章 氏
同 川江 彰代 氏
鯖江市政策経営部総合政策課 田中 直美 氏
同 藤田 陽子 氏
さばえSDG s 推進センター 関本 光浩 氏
同 仲倉 由紀 氏

内容 これまでの探究活動の中間発表会を実施し、探究活動に関わっていただいていた鯖江市およびさばえSDG s 推進センターの方々に助言をいただいた。詳しくは地域協働ニュース第15号を参照。

1 2 月 1 6 日（木） 「眼育さばえ」 ビジョントレーニング体験

講師 NPOみるみえる 加藤 裕之 氏
NPOみるみえる 坂井 晴香 氏
インストラクター 橋詰 公人 氏

内容 鯖江市が取り組んでいる「眼育」の活動の一環で、眼の健康体操やビジョントレーニングの体験を鯖江高校で実施し、本校で「眼育」をテーマにしているグループの生徒が参加した。詳しくは地域協働ニュース第17号を参照。

2 月 2 5 日（金） 小学校との交流会

対象 鯖江市惜陰小学校 3年生

内容 「環境」をテーマにしているグループが、惜陰小学校の3年生の児童に、紙芝居やクイズ、廃品を使ったおもちゃなどを通してSDG sのことを知ってもらう活動を実施した。本来は小学校に出向いて直接交流をする予定だったが、コロナ禍の影響で延期となり、対面での交流も不可能となり、オンラインでの実施となったが、生徒が探究してきたことが、小学生の子供たちに伝えることができた。詳しくは地域協働ニュース第20号を参照。

後日、小学生からの感想文が送られてきて、発表した生徒たちの励みとなり、探究活動への更なる意欲となった。

(72ページの写真を参照)



3 月 1 7 日（木） 「鯖江市SDG s 探究プロジェクト」 実践活動報告会

助言者 鯖江市総合政策課 小竹 博之 氏
同 藤田 陽子 氏
鯖江市市民活躍課 五十嵐 浩司 氏
鯖江市農林政策課 高橋 祐子 氏
鯖江市商工観光課 酒井 智行 氏
さばえSDG s 推進センター 関本 光浩 氏
さばえSDG s 推進センター 仲倉 由紀 氏

内容 これまでの「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の実践活動報告会を実施し、探究活動に関わっていただいていた鯖江市およびSDGs推進センターの方々に助言をいただいた。この活動も本来は2月に実施する予定だったが、コロナ禍の影響でこの日まで延期し、また助言者の方々はオンラインで接続して実施した。詳しくは地域協働ニュース第21号を参照。

その他 鯖江市、企業などへのインタビュー、企業訪問などを随時実施。



各教科での取組み

6月7日(月) 「人形浄瑠璃」体験授業(音楽)

講師 鯖江市人形浄瑠璃「近松座」 大橋 國利 氏 他

対象 3年 選択音楽受講生

内容 地域協働ニュース第4を参照

9月27日(月) 「人形浄瑠璃」発表会(音楽)

講師 鯖江市人形浄瑠璃「近松座」 大橋 國利 氏 他

対象 3年 選択音楽受講生

内容 地域協働ニュース第10参照

11月10日(水) 「エンカル消費」特別授業(英語)

講師 鯖江市役所 山田 眞美子 氏

同 森川 瑞代 氏

対象 2年探究科

内容 地域協働ニュース第14号を参照

11月17日(水) 「高分子」特別授業(化学)

講師 日華化学株式会社 松田 光夫 氏

対象 3年普通科(理系)

内容 地域協働ニュース第13号を参照

12月7日(火) 「放射線」特別授業(生物)

講師 日本原子力発電株式会社 佐藤 壤 氏

同 池田 龍子 氏

対象 3年普通科(文系)

内容 地域協働ニュース第16号を参照

2月21日（月） 「消費者教育」出前授業（現代社会）

講師 鯖江市消費者センター 清水 優子 氏

鯖江市市民相談課 山田 眞美子 氏

対象 1年探究科

内容 地域協働ニュース第19号を参照

コロナ禍の影響により、中止となった授業

・生分解性放射線実験樹脂を利用した授業（3年生物）

・福井銀行による資産形成や利率について（3年数学）

その他の活動

7月21日（水）・28日（水）ワーク・ライフ・バランス研修会

参加 希望者9名

講師 株式会社For Smile 加藤 裕美 氏

内容 地域協働ニュース第8号を参照

7月1日（木） 教員研修会

講師 株式会社わどう 山岸 充 氏

内容 地域協働ニュース第6号を参照

校外活動への参加

8月19日（木）「イクボスデー」トークセッション

主催 坂井市総務部総務課男女共同参画推進室

参加 本校生徒1名（オンライン）

1月30日（日）マイプロジェクトアワード2021北陸サミット

主催 全国高校生マイプロジェクト実行委員会

参加 本校生徒5名（オンライン）

運営指導委員会

第1回運営指導委員会

日時 11月2日（火）

13:05～14:55（5、6限目） 公開授業（2年探究科中間発表会）

14:10～15:30 運営指導委員会

第2回運営指導委員会

日時 3月23日（水）

15:00～16:30 運営指導委員会（オンライン）

議事録

令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 第1回 運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和3年11月2日(火) 15:05 ~ 16:15
- 2 場所 鯖江高等学校 視聴覚室
- 3 参加者 佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会 SDGs 委員会
田畑 雅人 鯖江市総務部長
澤 和広 鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬 自治医科大学名誉教授
大正 公丹子 福井県教育庁 高校教育課 参事
吉田 幸人 福井県教育庁 高校教育課 指導主事
浅井 裕規 校長
川畑 順一 教頭
渡辺 康仁 教務部長
酒井 龍弥 進路指導部長
山田 雅彦 探究研究部長
山田 繁 探究研究部 地域協働担当
千葉 章代 探究研究部 書記

4 内容

(1) 校長挨拶

文部科学省の研究指定を受けた、地域との協働による高等学校教育改革推進事業を令和元年度より始め、今年度は最終年度の3年目になる。目標を「地域への愛着とチャレンジ精神をもち、地域の未来を育てていく市民の育成」とし、地域との協働を柱に、持続可能な地域社会を形成していく高校生を育成する高校教育のカリキュラム開発を進めている。

令和元年6月に、鯖江市・鯖江商工会議所との三者連携協定を締結し、文化・教育・学術の振興と発展、人材育成、まちづくり、地域産業振興など、あらゆる分野で連携を図りながら地域活性化に向けて取り組んでいる。また今年2月には、仁愛大学と高大連携・高大接続に関する協定を締結した。探究活動の指導や授業力向上のための研究に連携して取り組んでいる。今日の中間発表会でも、仁愛大学の先生方には的確なご助言をいただいた。

丹南地区高等学校再編事業は2年目を迎える。今日ご参観いただいた「探究科」は昨年度新しくできた学科で、課題解決型の探究的な学びに重点をおき、課題研究による「主体的・対話的で深い学び」をさらに充実させたいと考えている。従来の「普通科」は、「スタンダードコース」に加え、専門コースである「スポーツ・健康福祉コース」、「IT・デザインコース」を新設した。専門教育に、今日のような探究活動を活かしていきたい。

総合的な探究の時間を、3年間で普通科では3単位、探究科では5単位という多くの時間を設定している。今月19日(金)には普通科の中間発表会を行う予定で、3月には探究科・普通科、双方の最終発表会を予定している。

運営指導委員の皆様には、様々な視点から忌憚のないご意見とご指導を賜りたい。そして本活動に対し、これまで以上のご理解とご支援をお願いする。

(2) 県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の折ご参加いただき、厚く御礼申し上げます。また鯖江高校の教職員の皆様には日頃より熱心に本事業に取り組миいただき、心から感謝する。

持続可能な地域社会を形成する市民の育成という構想のもと、令和元年度に文部科学省より指定を受け今年度3年目、最終年度となっている。今年度は研究の最終年度ということで、地元企業に強力にサポートいただき、SDGsのPR動画作成や大学での課題研究のワークショップ、また地域企業との交流会など様々な交流を行い、地域との連携による活動の統括が進められている。

来年1月には成果発表の報告ということで全国サミットが控えている。教育委員会として、鯖江高校の3年間の成果が全国へ発信されることに、大いに期待している。

運営指導委員の皆様には研究開発の総仕上げに向けて、ご指導・ご助言をいただきたい。今日の生徒たちの活動や事業報告に、忌憚のないご意見をいただきたい。

鯖江高校においては、今後來年・再来年と研究が益々充実したものとなるよう祈念している。

(3) 概要報告

- ・今年度のこれまでの取組みについて
- ・今後の予定について

別紙(スライド)参照

(4) 運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

授業を参観させていただき、大変に工夫をこらしていると感じた。生徒にとっては地域への愛着、学校にとっては地域との協働を進める中で、とりわけコロナ禍ということでご苦労があったと思うが、関係組織や団体との連携・協働の部分で、着実にその数が増えていて素晴らしい。

「地域協働ニュース」を、毎回関心をもって拝読している。取組みを続けていることが鯖江市内・県の教育委員も含めてかなり広がっていると想像しているが、更に読んでもらい、読んでもらったことに対する反響が返ってくると良い。今後どのようにまとめて報告していくか課題になる。着実に活動が続ける中で、授業を受けた生徒と地域とのつながり、企業との連携が広がっていくと素晴らしい。また学校と企業とのつながりが今後も広がり、継続していくと良い。

今日の発表会については、生徒がルーブリックの項目内容をしっかり把握し、項目を目標にイメージに沿うかたちで発表をした結果、質の高い発表が実現できていると感じた。ま

た、探究とは何か？とのつながりが非常に明確で、生徒が理解して取り組んでいると感じた。1年生の時から丁寧に指導を受けているため、比較的容易に取り組んでいるのではないかと思う。

しかしルーブリックにもう少し工夫があると良いと感じた。例えば、評価基準を複数ではなく2つくらいに絞ったり、生徒自身に評価基準を分けさせてみるなど、生徒との関わりの中で工夫をすると良いと思う。評価の観点にもう一つ「質問」という項目を付け足すと良い。他者の取組みを応援するために、適切な質問をすることが一つの技術として重要で、項目を増やすことで質の高い質問がでてくると思う。

1年生から取り組んだ成果が2年生でどのように表れているか、学校として生徒の成長をどのようにみているか、大変に関心がある。1年生の時から繋がった単元であることは理解したが、生徒一人一人の課題が年度毎に変わるのか、3年間つながっているのか興味深い。3年間同じ課題を探究し続け追いかけて続けるということは、地域とのつながりの中でも意味があり面白いと思う。

この課題研究を発表する場があると良い。学習として単にやったというだけではなく、発表することによって、地域に対する高校生としての責任、課題に取り組んだ責任を果たすことになるのではないかと思う。可能であれば、企業から発表に対する評価をもらえると良い。場合によっては生徒の提案が企業で採用されることもあり得る、またそれがきっかけで地元の企業に就職するなど、発表が企業側からのお墨付きのようなものになると良い。

学校と地域が、子どもをいかに地域とつなごうかと努力する中で、様々な展開ができていくことに大変評価をしている。あと半年、どのように仕上げるか大変だと思うが応援している。

〈田中氏〉

課題を見付けるテクニックがうまくなっていると感じた。しかし、自分と課題とのつながりが見えてこない生徒もあった。

課題を解決するための情報処理能力には3つのレベルがある。

【レベル1】自分ごとと考える、そのため自己中心になりやすい。例えば、仕事をして社会に貢献するより、給料をたくさんもらいたいと考える。一番身近な自分のところだけの情報を処理する能力がレベル1。

【レベル2】自分と周り、地域を考える。今日の仁愛大学の先生の言葉に、自分のためにならない奉仕活動・労働は参加しなくて良いと考えるよね？とあったが、それは違うと思う。損得で考えると仕事は成り立たない。周りでどういう課題が起きているかを認識して、自分たちで解決できるか考える。自分と周りの情報処理能力がレベル2。

【レベル3】自分と世界をつなぐ。社会の動きが理解できると、自分たちで社会をつくろうとする。社会で何が起きているかを理解し、アクションを起こす。自分と世界の情報処理能力がレベル3。

自分と周りとの関わりから課題を見出すことが大切である。3年間一貫したテーマは、周りとの関わりを強化すると思う。自分ごとだけではなく、自分と地域社会との関係性を考えられる人材がこれからの経済を支えていくと思う。

〈田畑氏〉

授業内容がとても進化していることに驚いた。テーマが生徒によって違うなか、地域などから方向性に対してなどの助言がしっかりされていて、強力なサポートがあり素晴らしい。鯖江市役所も連携協定を結ばせてもらっているなか、鯖江市として何が支援できるか、今後またしっかり連携を深めていく必要があると考えている。

〈澤氏〉

テーマにも生徒たちの柔らかい発想を感じ、なるほどと感心した。

鯖江のバスはどうなるのか？など、地域住民にとっての素朴な疑問・差し迫った課題にも目を向けてくれていて有り難い。

西出先生の授業“エッグドロップ”など、とても盛り上がったと思うが、そのような意図的な仕掛けが散りばめられていることが、生徒たちの柔らかな発想を引き出していると感じた。そして協力してくれている方たちに、生徒たちが安心感をもって関わっていてとても良いと思う。

地域との連携がとても素晴らしく、地域住民としても有り難いと感じる。

〈齋藤氏〉

発表することを相手に理解してもらうため、分かりやすい大きな声で発表すべきである。スライドも、字の色や字体・大きさを、相手に分かりやすいものにするべきである。発表する姿勢・発表の仕方を身に付けてもらいたい。

小さい自然現象に対する疑問の心を、自分の心で考えてもらいたい。自分で考えることをしなければ世界に通用しない。誠の心で何が正しいか、どれが本当に正しいかを議論しなければならない。

質問者は大きな声ではっきりと、正しく質問をしなければならない。手を挙げて自主的に質問をするべきである。的確な質問をし、相手をやりこめるのではなく問題点をえぐり出すことが重要である。

先日ラジオ番組で、就学前の女の子が「昆虫の足が6本あるのはなぜですか？」と、世界中の誰も答えられないような大問題を質問していた。博物館の関係者の回答が、「ムカデに足が何本あるか知っているか？」と、自分の知識に置き換えていてとても残念だった。不思議だと感じる気持ち、素朴な疑問が極めて大事である。純粋な心を育ててもらいたい。

〈大正氏〉

いつも学校に協力していただき大変に感謝している。

昨年度鯖江高校探究科が新設され、県としてもカリキュラムやどういった探究活動を進めるか、どのような生徒を育てるか、大変関心をもち大事なところと考えている。

1年生の時に課題研究のテーマを設定する授業があり、生徒自身が問いを立て研究を進め、今日はその中間発表ということで、地域への貢献意識・地域への愛着が大前提だったと思うが、発表を聞いていて、問題を自分ごとにしていない印象があった。探究手法は身に付いているが、テーマに対して自分がどのような姿勢でいるのかが見えてこなかった。

周りへの意識が弱いと感じる。意識が変わると、テーマに対する深み・考え方が変わり、質問が変わり、結果も変わってくると思う。

折角これだけ地域の方と密接に関わっているのなら、地域の方にインタビューするなどして、地域の一員としてテーマを設定などすると良いと思う。

全体的には大変な成長を感じる。研究は今年度で終わりになるが、今後後輩たちにも伝えていけるようご協力いただきたい。

〈佐川氏〉

資料の中の、育成すべき生徒像「持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する生徒」、これは究極の目標だと思う。3年生はこの事業が始まってからの3年目ということで是非3年生の彼らに“君たちは持続可能な地域社会の形成者になれるだろうか？”という問いをぶつけてもらいたい。地域社会の形成者になりたいという答えが返ってきたら、事業として救われる。

3年目ということで、総合評価をする仕掛けをつくると良いと思った。卒業までに、自分達が身に付けたい知識・能力が、どのくらいこの活動を通じて身に付いたか自己評価をするとう良い。

〈鯖江高校〉

三菱UFJの高校魅力化評価システムで3年間の追跡調査を行い、見える化を図っている。生徒の資質・能力が1年生の入学時から3年間でどのように変容したかをしっかりと把握し今後につなげていきたい。

次回、第2回運営指導委員会を令和4年2月18日(金)に予定している。

令和3年度
地域との協働による
高等学校教育推進事業
第1回運営指導委員会

- 今年度のこれまでの取組み
- 4月 1年探究科 「エッグドロップにチャレンジ
ー課題研究のすすめ方についてー」
仁愛大学 西出教授
 - 5月 2年探究科 「実験方法と調査方法を学ぼう」
仁愛大学 西出教授 織田准教授
 - 6月 3年音楽選択者 人形浄瑠璃体験
鯖江人形浄瑠璃「近松座」

- 6月 2年生全員 環境活動家 露木志奈氏講演会
- 7月 教員研修会 「鯖江の今と可能性」
株式会社わどう 代表取締役 山岸充氏
1年探究科 「鯖江市の企業との交流会」
@鯖江商工会議所
鯖江商工会議所、アイテック(株)、
(株)鯖江村田製作所、タイヨー電子(株)、
ふくい眼鏡工業(株)、ヨシダ工業(株)
2・3年生9名 「ワークライフバランス研修会」
(株)For Smile 加藤裕美氏、鯖江市役所

- 7月 2年生探究科 高校生課題研究ワークショップ
@仁愛大学(武生高校、武生東高校と合同)
- 9月 3年音楽選択者 人形浄瑠璃発表会
鯖江人形浄瑠璃「近松座」
- 10月 2年生全員 「鯖江市SDGs探究プロジェクト」
2年生5名 鯖江市+SDGs宣伝動画撮影
- 11月 2年生探究科 課題研究中間発表会

- 今年度の予定
- 11月 2年生普通科 SDGs探究プロジェクト中間発表会
 - 12月 1年生探究科 「2030 SDGsカードゲーム」
エコネットさばえ 榎原秀典氏
 - 3月 1・2年生探究科 課題研究発表会
2年生普通科 SDGs探究プロジェクト発表会

- 今年度のこれまでの取組みについて
- ・昨年度の課題①「地域と連携した実践的な探究学習」
ー探究科・普通科ともに地域の様々な機関と連携した探究活動を実施
ーイベント的な連携でなく、恒常的な連携に
 - ・昨年度の課題②「他校種との交流や地域への貢献活動の実施」
ーさばえSDGs推進センターと丹南ケーブルテレビと連携したPR動画作成など

令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第2回 運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和4年3月23日(火) 15:00 ~ 16:00
- 2 場所 Zoomによるオンライン会議(本校教員は視聴覚室)
- 3 参加者 (欠) 佐川 哲也 金沢大学地域創造学類長
田中 謙次 福井経済同友会 SDGs 委員会
田畑 雅人 鯖江市総務部長
(欠) 澤 和広 鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬 自治医科大学名誉教授
大正 公丹子 福井県教育庁 高校教育課 参事
吉田 幸人 福井県教育庁 高校教育課 指導主事
浅井 裕規 校長
(欠) 川畑 順一 教頭
渡辺 康仁 教務部長
酒井 龍弥 進路指導部長
山田 雅彦 探究研究部長
山田 繁 探究研究部 地域協働担当
千葉 章代 探究研究部 書記

4 内容

(1) 校長挨拶

本来ならば、この会議は先月に行われる予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の影響により、本日に延期したことをお詫びします。また生徒たちの授業の様子や発表の様子を見ていただけなく、会議だけになってしまい、申し訳ありません。

運営指導委員の皆様にはご出席いただき、ありがとうございます。そして日頃よりご指導いただき、ありがとうございます。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業ですが、本校は文部科学省の研究指定を受けて令和元年度から3年間取り組んできて、今年度最終年度を終えようとしています。県の教育委員会のご指導をいただきながら、鯖江市、鯖江商工会議所との三者連携協定、および仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定、この2つを活かして取り組んできました。コロナ禍において、昨年度は計画されたすべての事業を実施することは困難でしたが、今年度は実施方法を工夫しながら実施してきました。

本校は丹南地区の高等学校再編事業によって、一昨年度に始まり2年目を終え、来年度はすべての学科が新しい学科・コース・専攻となります。探究科においては、新しい学科ということで課題解決型の探究的な学びに重きをおいて、そして、課題研究による主体的・対話的で深い学びを、更に充実させている。また、普通科においては従来の普通科であるスタン

ダードコース，そして新しいコースであるスポーツ・健康福祉コース，ITデザインコースでも，本事業で得られた地域とのつながりを専門教育に活かしています。

今後の取組みについて，事業としての3年間は終了するが，鯖江市・鯖江商工会議所，そして仁愛大学との連携をこれまで以上に密にし，地域協働の活動に取り組んでいきます。そして，活動の成果を県内外に発信していくことを使命と考えています。

本日の委員会では，本事業の本年後半の取組み，本事業の3年間の取組みを報告し，本事業終了後の取組みも説明します。様々な視点から忌憚のないご意見とご指導をお願いいたします。

運営指導委員と県教育委員会の3年間のご指導に感謝します。本活動に関して，これまでと同様のご理解とご支援をお願いいたします。

(2) 県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の中，運営指導委員会にご出席いただき，厚くお礼を申し上げます。また，鯖江高校の教職員の皆様には，日頃から本事業に積極的に取り組んでいただき，感謝申し上げます。

鯖江高校では鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し，持続可能な地域社会を形成する市民の育成というテーマのもと，令和元年度より3年間研究開発に取り組んでいただきました。そのあいだ，鯖江市・鯖江商工会議所との連携協定，また仁愛大学との連携協定を結ぶなど，地域との協働体制をしっかりと構築してきました。その上で生徒の探究力を育て，持続可能な地域社会を形成する人材育成につながる授業，またカリキュラムを構築し実践をしていただけてきた。まさに地域人材育成の芯となるような「オールSABAE」の取組みや成果を残すことができたのではないかと思います。

運営指導委員の皆様には，これまでの3年間の実践発表や事業報告を踏まえて，生徒の学び，また研究についてご意見・ご助言をいただきたく存じます。どうか忌憚のないお話をお願いいたします。

また鯖江高校におかれましては，本日の運営指導委員会のご意見を参考にして，この後の研究終了後も地域を支える人材育成を推進していくことを願っています。

(3) 概要報告

- ・今年度後半の取組みについて
- ・3年間の取組みについて
- ・本事業の終了後の予定について

別紙（スライド）参照

質疑・応答

〈田中氏〉

すごく興味深い結果だったので，じっくり見ていました。学校としての考察として，表現力・協調力・行動力があるが，「学校以外のいろんな人に話を聞く」「自主的な調べ物や取材をする」のポイントがすごく上がっている反面，「自分の考えを相手に伝えることができる」のポイントが下がっている点について，クロス評価など，先生方で感じていることはありますか。

〈山田雅彦〉

行動力に関しては、興味を持ちだしたら自分で行動するようになりました。表現することは別次元のことなのかなと感じています。プレゼンテーションをさせても棒読みになっていたりするなど、もう一歩、表現する力を育てていかなければならないと感じています。

〈田中氏〉

これは自分の達成度を理解し始めたからポイントが下がってきたという理解でよろしいですか。

〈山田雅彦〉

よく言えばそう行くことかもしれないが、まだ人前に出て話をすることが不十分と感じています。今回は教室内での発表だったので、これをもっと広いところで、本来は体育館で一斉にパネル展示で実施する予定だったが、それができなかったのが残念でした。

〈山田繁〉

今の件で、補足します。行動力の面に関しては、例えば校外の発表活動などに参加したいと希望する生徒は、数を追っているわけではないが、3年間で少しずつ増えてきている実感があります。ただし、そのような場に出ようとしたとき、自分の考えをはっきり伝えるというところまで、こちらが育成できていないというのが現実だと思うので、まずは行動するというところまではもっていったので、これをさらに表現力を磨いていくかということ、こちらが考えていかなければいけないし、学校としてもそのような場をもっと提供し、生徒がさらに発表する場を作っていく。先ほど市民に成果を還元すると言ったが、できれば来年度、再来年度は鯖江市役所など、普通の市民の方を相手に発表する場を設定し、より表現力の部分も磨いていけたらと考えています。後は、一般の方を相手に質疑・応答ができるかどうか、そのような能力を磨いていけるようなカリキュラムを作っていく必要があるのかなと感じています。

(4) 運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

SDGsに関するカリキュラムが非常に多くなっていて、素晴らしいと思いました。他校や県外の学校や大学では、ぼちぼちアクションプランに移しているところも増えていると最近感じています。SDGsを研究するというステージは、鯖江高校としてはもういいのではないかと思います。実際にSDGsの行動をしていくというところ、自分たちの力で社会がどう変わっていくかというところを探究して行ってほしい。大人がやっている社会を高校生がやってどうなるかという雰囲気になりがちであるが、そうではなくて、高校生だからこそできる、鯖江だからできるという行動を見つけ出してもらいたいと思いました。昨年、露木志奈さんが講演されたときに「行動するには大人になるまで待たなくていい」という言葉を残しています。露木さんは全国の小中高校を渡り歩いているが、彼女のSNSをみると、小学校ですら実際にアクションプランを起こしているという事例が結構あります。なので、大人が考えることを無理して考えるのではなく、高校生だからこそというところに注目すると

いいのかなと思います。それが学校での取組み、クラスでの取組み、小学校区での取組み、部活動の取組みなど単位は何でもよいので、小さい団体でもよいので、みんなで取り組めると更に鯖江型を発展させることができるのではないかと思います。

〈鯖江高校 山田繁〉

今のことについて、ちょうど来年度からSDGs推進センターの方が中心となって「SDGs部」というものが立ち上がる予定で、本校から5名の生徒が参加を希望しており、何かそういうところで行動したいという生徒が出てきているので、地域と連携して、もっともっと活動ができるようにしていきたいと考えています。

〈田畑氏〉

鯖江市の今後の取り組み方についてお話をすると、文部科学省の3カ年の事業が終了して、今後の連携協定を踏まえて、探究活動をいかにしっかりと継続していくかが課題だと思っています。鯖江市としては来年度以降も「めがねのまち鯖江 探究活動事業」という単独の事業として、鯖江高校と連携しながらいくつかの事業を展開し、連携の継続、探究活動の継続をしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

成果の地域への還元として、発表の場の創出を、鯖江市としても何らかの形で支援していただけるように、鯖江高校と協調しながらできることをしていきたいと考えています。

行動力の数値が上がっていることについて、フィールドワークの重要性を生徒も理解しているようで、生徒の能力が発揮できる場を、市としても今後も提供できるように、これから進めていきたいと考えています。

〈齋藤氏〉

地域との探究の中で、皆さんが大変努力していただいていることを、心から感謝いたします。

少し話は飛ぶかもしれませんが、現在、ウクライナで戦争が起こって1カ月になろうとしています。あのウクライナ人の姿勢を見て、世界中がショックを受けたというか、今まで考えていなかった姿勢を彼らが示したということが、これからの社会に大きな影響を与えるのではないかと考えています。その地域愛、郷土愛という強烈な愛情をウクライナの人たちが持っているということ、これは鯖江、福井、日本人が持っているより強いという印象を受けて、ある意味でショックを受けたのではないかと思います。そして、あの困難の中で自分の家庭を大事にして、女の人や子供を避難させながら国を守るという、この強烈な姿勢というものは戦後の日本の中では、少し弱かったのではないかと気がするのですが、基本の基本をもう一回思い出させてもらったような印象を受けました。ですから、このウクライナという国のことを細かくは知らないが、外国人の報道の声を聴いていると、文化豊かな美しい場所だったそうで、そういったものをみんなが大事にしようとしている。日本人のコメントの中には、なぜ平和のために早く降伏して平和にしないかという印象の発言をする人がいるのを感じているが、あの世界の中で、つまり我々が学問をする、高校から大学さらに成人していく中で一番大事なのは真理を求めることであって、真理というものは絶対の真理があると信じて努力するものです。実際はたくさんの意見があって、すぐにその真理がつかめるものではないけれども、そこで議論を戦わせて、絶対の真理というものがあると思う

から努力をする，人間の真理の姿というのは正義であると思うから，ウクライナ戦争のことを考えても，平和ではないということは事実だが，どちらが悪いのだという議論は，日本ではあまりはっきりしない，しかし世界ではかなりそのところを明確にしようとしています。ですから私が言いたいのは，地域を大事にするということは，広い世界の中での位置づけによって，地域というものの価値が定着し，評価されるのであって，そういう意味で，地元の企業との連携ももちろん大事ですし，ありがたいことですが，その企業の価値の位置づけというものを世界の中で判断することができれば，その立場は強固なものになる，そういう側面をもっているということ，ウクライナから教えてもらったというつもりはありませんが，もう一回思い直してみるということを感じました。それは教育の中でも基本の基本ということ，自分で真理を探す，自分で物事を考えるということは，言うは易くして容易なことではありません。その努力をする姿勢を心の中でしっかり持てる人を育ててもらえればと思っています。たまたまウクライナ戦争から1カ月になるそういう時なので，そういう地域というもの，国家というものを考えながらそういうことを思いました。皆様方のご努力で鯖江高校の子どもたちが活躍することを心から念願し，また皆様方の地域の方々への援助によって彼らが達成することができれば，大変ありがたいことですので，どうぞよろしく願いいたします。

〈大正氏〉

この事業が始まって3年がたちますが，おそらくこの事業をやっている途中は，ほぼコロナ禍の状況で，学校で取り組みたいこと，外部の方と協力して行いたい授業がほとんど思うようにできなかったのではないかと思います。そのような中，オンラインなどを工夫して何とか生徒のために，いい形で研究を進めていただいたと思い，心から感謝をしています。学校にとっては，学校が外部の人と協力をして授業をする，しかも生徒全員で授業をするということは，実は非常にハードルが高いことだと思います。ですが，そういったことがありながら地域と協力して生徒に学ばせる機会をたくさん作っていただいて，本当に良かったのではないかと思います。今後の課題として，成果の地域への還元が大事だと考えています。地域の人に学んだことを聞いていただく，あるいは学んだことを一緒に形にする活動ができると，生徒たちが地域の人たちと対等に話ができるし，それによって怒られもするが，ほめられもすると思います。それによって，認められ感が高まり，自己有用感が増すのではないかと思います。そうすると，また更に地域の人たちと研究をしようというような，いい循環ができるので，これこそがまさに地域協働事業の本来目指すいい形なのではないかと思いますので，またこれから取り組んでいただきたいと思っています。

今，社会に開かれた教育課程が文部科学省で話が出ていますが，簡単に社会に開かれた教育課程といっても，実際には非常に難しいですが，鯖江高校はこの3年間でそのスタートラインに立っていると思いますので，研究は一旦終わるが，今後も継続してどんどん進めてほしいと思います。地域の方が全員先生，地域から学ぶということが学習活動として当たり前になっていくことを願っています。3年間どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

〈鯖江高校 山田繁〉

今ほど、様々なご意見をいただきましたことを、考えるだけではなく、具体的にいかに行動に移すかということが大事かということ再認識しました。鯖江市側からいくつか実際に提案をしてほしいということもわかっているのです、現実として実現しそうなプランなので、どんどんこちらからもそういうことを増やしていきながら、今後も地域と協働して、鯖江高校の教育をより良いものにしていきたいと考えていますので、これからも継続してご指導・ご助言をよろしくお願いいたします。

概況報告スライド

令和3年度
地域との協働による
高等学校教育推進事業
第2回運営指導委員会

今年度後半の取組みについて(1)

11月 2年探究科 英語特別授業「エシカル消費」
鯖江市総務部
3年普通科 化学特別授業「高分子は身近な素材」
日華化学株式会社

12月 3年普通科 生物特別授業「放射線とは？」
日本原子力発電株式会社
2年普通科 「ビジョントレーニング体験」
NPO法人「みるみえる」
1年探究科 「SDGsカードゲーム体験」
NPO法人「エコネットさばえ」

今年度後半の取組みについて(2)

2月 1年探究科 消費者教育出前講座
鯖江市消費生活センター・鯖江市市民相談課
2年普通科 SDGs探究プロジェクト
惜陰小学校との交流会(オンライン)

3月 2年普通科 SDGs探究プロジェクト実践報告会
鯖江市役所・さばえSDGs推進センター(オンライン)
1年探究科 探究学習特別講座
(株)田中地質コンサルタント

本事業の目的(1)

①市民との協働による学びを促進し、**持続可能な地域社会を形成**する市民を育成する。

②市民との協働による学びにより、**生徒の探究力を育成**する。

③市民との協働による学びの成果を広く発信し、**地域の中核としての学校**を目指す。

本事業の目的(2)

どんな生徒を育てたいか？

①地域への愛着と貢献意識を持ち、**地域の未来を育てる**市民
②地域の**伝統や文化を継承し、新たなことへのチャレンジ精神**を持つ市民
③**多様な価値観を共有し、あらゆる人々を包摂する社会**を形成する市民
④**持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する**市民
→鯖江型高校教育「**オールSABAE**」の形成

本事業の成果(1)

①連携協定の締結

鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市の相互連携協定 令和元年6月13日
仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定 令和3年2月26日

本事業の成果(2)

②探究学習の深化

- 探究科・普通科のカリキュラム開発
- 各種機関・企業・NPO法人との連携
- 探究学習の地域への発表



本事業の成果(3)

③普通科目での地域との連携



本事業の成果(4)

④生徒の能力の向上

アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				2年生の割合(%)	
	2019年	2020年	2021年	前年度との差	2021年度	1年次との差
表現力	71.8	68.8	64.6	-4.2	64.8	0.35
	59.8	57.5	58.4	0.9	59.5	6.15
協調力	89.7	90.2	93.1	2.9	91.1	4.16
	91.1	90.2	90.2	0	88.7	0.13
	72.6	72.4	67.7	-4.7	66.4	-2.77

本事業の成果(5)

④生徒の能力の向上

アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				2年生の割合(%)	
	2019年	2020年	2021年	前年度との差	2021年度	1年次との差
目標を設定し、確実に行動することができる	65.1	63.0	66.3	2.3	66.0	8.68
	60.2	64.2	64.1	-0.1	63.2	0.24
自分で計画を立てて行動することができる	60.4	58.3	61.2	2.9	64.0	14.96
	29.2	30.9	34.7	3.8	40.9	13.22

今後の課題

①2つの連携協定の深化

点から線、面へ

②成果の地域への還元

例：ボランティアや地域イベントへの参加増
学習成果の市民への発表

キーワードは「鯖江市」と「SDGs」!

～普通科2年生 総合的な探究の時間～

PR 動画制作のイメージを持とう!

4月

16日、2年生の「総合的な探究の時間」の活動が始まりました。今年度は、これまで学んだ探究活動のためのスキルを活用して、「鯖江市」と「SDGs(国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標)」をキーワードに、鯖江市の抱える課題について、グループにわかれ、SDGsの視点で解決策を探究していく活動をおこなっていきます。



オリエンテーションでは、まず、「自分の住んでいるところにどんな課題があるのか」という問いに対しそれぞれで考えた後、「では、その課題は誰が解決するのか」と考えを進め「自分たちの地域の課題を自分たちの問題として捉え、解決していこう。」「SDGsを市全体で推進している鯖江市の取り組みを深く知り、高校生の視点で何ができるか考えていこう」という総合的な探究の時間の活動のテーマについて、再確認しました。

今年の大きな活動のひとつは「鯖江市のSDGsの取り組みをPRする動画制作」です。この取り組みについての概要理解のため、丹南ケーブルテレビ株式会社より 林良宗さん、鯖江市SDGs推進センターより 仲倉由紀さんをお招きして、ご講演をいただきました。



まず、仲倉さんからは、鯖江市は持続可能なまちづくりを進めていくために、17の目標のうち、5番の「ジェンダー平等の実現と女性活躍」を礎に、持続可能な地域モデル「めがねのまちさばえのSDGs」の確立に向けて、様々な活動をされているというお話を伺いました。

また、世界中の人が注目してくれる動画企画を鯖江高校から発信していくために、まずは、私たち自身がSDGsについて、「なぜこの目標が設定されたのか?何が問題なのか? 取り組まなかったらどうなるのか? 私たちは何ができるのか?」について考えてみよう。その上で、現状を調べ高校生だからできることに取り組み、発信して行ってほしい」というお話があり、生徒たちもSDGsの理念や鯖江市の活動について学ぶと同時に、今年度の活動へ意欲を高めていました。



さらに、SDGsをテーマにしたイメージ動画を視聴し、林さんからは、動画の種類、視聴者を惹きつけるための工夫についてのお話やドローンを使った撮影のご提案をいただきました。生徒たちはSDGsの内容について再確認すると同時に、動画制作についてのイメージを膨らませていました。

【生徒の感想から】

- 今日はさらにSDGsについて深く考え直すことができてよかった。今まで自分達はSDGsについて教えてもらう立場だったが、これからは自分たちが教えていく立場になるために、さらに深く知る必要があるなと思った。僕たちは動画をみたり、触れたりする機会が多いので、その経験や知識を動画制作に生かしたい。
- よい動画を作れるように、たくさんアイデアを出したいし、初めてSDGsを知る人にも簡単に伝わるように工夫できたらいいなと思いました。
- 鯖江市はSDGsに深く貢献していて、その活動で国連や国にも認められていることがわかりました。自分たちもこうした活動をたくさんの人にアピールできる動画を作りたいです。

エッグドロップにチャレンジ!

～探究科1年生 探究～

課題研究って!?

4月30日(金)、1年生探究科の「探究」の時間に仁愛大学の西出和彦教授をお招きし、特別授業を行いました。今回は、探究科の中心的な活動となる探究学習の基本として、課題研究とはどのようなものか、概要を説明していただき、その面白さを体験するエッグドロップにチャレンジしました。

研究とは「まだ誰も解いたことのない問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセス」という上野千鶴子さんの説明を引用し、中学校までよく取り組んだ調べ学習との違いについて、分かりやすく説明していただきました。



いざエッグドロップにチャレンジ!

答えがすぐに見つからない問題を体験するため、ペアになってエッグドロップにチャレンジです。与えられるのは新聞紙3枚とご飯。2メートルから落としたとき、卵が無傷だったら成功です。15分間という短い時間でしたが、ペアで話しながら、様々なアイデアを出していました。クッション性を向上させるため、もしくは落下スピードを落とすため、どのような方法があるか、どのペアも時間いっぱい頭をフル回転。



いよいよ、落下させる時がくると、どのペアもドキドキしている様子がこちらにも伝わってきます。実際に落としてみると、17グループ中、11グループが成功! 残念ながら失敗してしまったグループもありましたが、どうやったら成功したのか、改善策を話しているペアもありました。成功したグループも失敗したグループも、探究学習の面白さの一端に触れることができたようです。

次回も西出教授をお招きし、課題研究の問いの立て方について講義していただきます。ここから本格的な探究学習がいよいよスタートしていきます!

【生徒の感想から】

- 課題は同じだったけど、ペアの人と自分とで解決のために考えた方法は違って、自分にはなかった考えとも出会えたし、自分なりに方法を何パターンも考えることができてよかった。
- いろいろ難しく考えすぎて卵が割れてしまいました。でも、どうすれば…と考えて試行錯誤したのが楽しかったです。
- ペアと協力して、どうすれば割れないか、どうしたらもっとクッションになるか、考えるのが面白かったです。今回は1回きりでしたが、失敗を活かした実験もやってみたいです。
- 誰かに考えを提案し、共有することでよい方法が見つかるなと感じました。これからも自分の意見をしっかりと話していこうと思います。
- 今日の授業を受けて、課題研究と調べ学習は全く違うものだと分かりました。また、クラスメートと話し合っただけで、考えることで、考えることの楽しさを学びました。

実験方法と調査方法を学ぼう！

～探究科2年生 探究～

5月6日(木)、探究科2年生の「探究」の時間に仁愛大学の西出和彦先生と織田暁子先生をお招きし、特別講義を行いました。探究科は2年生から本格的に課題研究が始まるため、実験方法と調査方法について学びました。

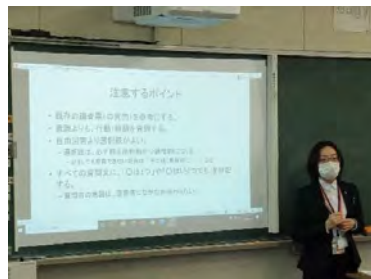
実験方法について

西出先生からは、実験方法について説明していただきました。実験を行う際の注意点として、意味のある(結論の根拠となる)データを収集することの大切さを学びました。そのためには、まずは先行研究を徹底的に調べ、正しい方法(因果関係を何で捉えるか?)で正確に測定(条件の統一や再現性など)する必要があることを教わりました。また、生徒が立てた問いに沿った具体的なお話もして下さり、実験方法のヒントをいただきました。その後、西出先生のお話を踏まえ、各自が立てた問いの解決方法が思いつくかどうか、研究する意義があるかどうかを再確認するために、グループになってお互いにアドバイスをしました。



調査方法について

織田先生からは、調査方法について説明していただきました。特に印象に残ったことは「調査されるという迷惑」でした。例えば、回答に5分かかるアンケートを50人に行うと、合計250分(4時間以上)の時間を奪うこととなります。そのため、調査される側の時間的なコストも考慮し、本や新聞、先行研究の二次分析で問いを解決することも視野に入れ、調査は必要最低限にすることの大切さを学びました。また、アンケートでは、意識よりも行動や経験を質問したり、選択肢は相互排他的かつ網羅的に作ったりすることなどがポイントであると教わりました。織田先生からは具体的な質問文を出していただき、「あなたの好きな食べ物は何ですか?」を通してワーディング(言葉遣い)の重要性、「あなたは、犬や猫が好きですか?」からはダブルバーレル質問を避けるということを分かりやすく教えていただきました。他にも、標本調査の考え方や、研究を「楽しむ」ことの大切さも教わりました。



【生徒の感想から】

- 「意味のあるデータを収集する」という言葉がとても印象に残り、何のために実験をするのかを事前によく考え、問いに答えるための根拠となるような実験をしていきたいと思いました。
- 調査をするとき、何を明らかにしたいのか、そのためにどんなデータが必要なのかを考えることの大切さが分かりました。「調査公害」という言葉も初めて知り、人への配慮を忘れずに、的確な調査をしていきたいです。
- アンケートは手軽な方法だと思っていましたが、質問の仕方や順序によって答えに大きな違いが出てくるのが分かり、とても奥が深いと感じました。
- 探究して出た結果が、たとえたくさんの人のためになっても、結果が出るまでにたくさんの人を借りていることを学んだので、中途半端にならないように、みんなのためにしっかりと実験や調査をしていきたいです。
- いきなり実験や調査をするのではなく、まずは先行研究を徹底的に調べることの大切さが分かりました。自分の立てた問いが本当に解けるのか、もう一度考えたいと思いました。

人形浄瑠璃 学び披露へ

～3年生音楽選択者 体験授業～

令和3年6月7日(月)4限目、選択音楽を受講する3年生が、鯖江人形浄瑠璃「近松座」の大橋國利さんをはじめ団員の皆さんから人形の操り方や語り、三味線の演奏方法などを学びました。

鯖江市ゆかりの近松門左衛門の人形浄瑠璃について学んできた成果として、11月の東海北陸音楽教育研究大会で人形浄瑠璃「傾城阿波鳴門 巡礼歌の段」を披露します。

阿波徳島の城主から勘当され、盗賊となった夫と大坂で暮らす妻。そこへ徳島に置いてきた娘が、巡礼の旅にやってくる・・・という物語です。



人間の機微に触れる表現を

上半身、右手、首振りの全体を主導する主遣い、左手を操る左遣い、足を動かす足遣いの3人が意気を合わせて一体の人形を操ります。まるで生きているかのような人形の細やかな動作や表情、そして人間の機微に触れる表現など、細かい指導を丁寧に受けました。座るときの体の角度や仕草、大人と子どもの歩き方の違いをどのように表現するかなど、実際操ってみると少しの動かし方の違いで雰囲気が大きく変わる面白さなども感じている様子でした。

太夫役の3人の男子生徒は、床本ゆかほんという詞章本をもとに、登場人物のセリフから、情景や心理を表現する地の文までの全てを語ります。各々が旋律や強弱を床本に都度書き入れて、一つずつ確認をしながら練習しました。自分だけの床本が出来上がっていき、3人それぞれの持ち味を生かした喜怒哀楽を感じられる語りに仕上がってきました。

緊張をするとリズムが速くなりがちになる、しかし大きい声を出す時にはやまびこを聞きゆっくりになる。そのためどうしても速くなったり遅くなったりしてしまう。その太夫のリズムを取る役割が三味線で、三味線は太夫にとって客観的スピードを計る助けとなるもの、ということでした。

三味線担当の3人の女子生徒は、強めにはじくと芯のある音がでることなどを体感し、簡単などころは弦を見ずに弾くことができるようになりました。太夫の語りにタイミングを合わせ、三味線もまた物語を語り、授業時間の終盤には、太夫役と三味線担当の生徒たちだけで呼吸を合わせ、見事競演ができました。

生徒の感想より

〈三味線〉

太夫の語りに合わせるところはリズムが決まってないので合わせるのが難しかった。リズムが速いところも弦を見ずに弾けるようにしたい。



〈人形遣い〉

小道具を実際に人形が持っているかのように見せるのが難しかった。

ちゃんと話しを聞いているように見せるために、頭を傾けたりさせるのが難しかった。

〈太夫〉

歌の部分と語りの部分の音程を取るのが難しかったけれど、あまり音程は気にしないで良いと指導して頂いたので、大きな声で堂々と語れるようにしたい。



環境活動家・露木志奈氏 SDGs 講演会

～2年生総合的な探究の時間～

令和3年6月18日(金)7限目、環境活動家・露木志奈氏に講師としてお越しいただき、2年生全クラスを対象に気候変動についての講演をしていただきました。

露木さんは2001年横浜生まれ。15歳まで日本の公立学校に通い、英語が苦手ながら日本を飛び出し、高校3年間を「世界一エコな学校」と言われるインドネシアのバリ島にある「Green School」で過ごしました。ジャングルの中にある竹で出来た壁のない美しい校舎で、約500人の幼稚園から高校までの生徒が学びます。そこで過ごした日々が今の活動につながっているということでした。現在は慶應義塾大学環境情報学部を休学し、環境活動家として全国の中学校・高校を訪れ講演活動を行っています。



大人になるまで待たなくていい

グリーンスクール在学時、妹が化粧品で肌荒れを起こしたことをきっかけに化粧品について調べ、日本には“無添加”などの言葉の定義がなく“ナチュラル”や“オーガニック”という言葉も100%安全ではないと気付いたそうです。また残酷な動物実験の実態などを知り、誰かの犠牲の上に立つ化粧品は使いたくないという思いから自分で化粧品づくりを始め「環境と肌に優しいコスメ」ブランドを立ち上げたそうです。

何かを始めるのに大人になるまで待たなくていい！露木さんの力強いメッセージを受け取りました。



地球の限界

グリーンスクールの授業で、先進国のゴミが含まれる「ゴミの山」を訪れた時に、実際に見るゴミの山に「これではいけない、消費者が変わっていかなければ」と強く思った経験談を、生徒は傾きながら聞き入っていました。大きなスクリーンにClimate Clock(クライメイト・クロック)という、世界の平均気温上昇を1.5度未満に抑えられるまでのデッドラインを示す時計が映し出された時には、生徒各々が、自分たちはどうすれば良いのか？露木さんの言葉を受け止め、思考を巡らせている様子でした。デッドラインを超え北極・南極の氷が溶けていくと、海面上昇や生態系の破壊のほか、氷に閉じ込められていた未知のウィルスが出てくるという問題もあるそうです。洪水や干ばつ、森林火災などの災害に見舞われる可能性も高くなるということでした。

Our choices change Earth ～今日の選択が明日の世の中をつくる～

- ・ パーム油は、チョコレートやスナック菓子、口紅や石鹸など、日常生活に多く使われているが、プランテーションを開発するために熱帯雨林を伐採し、生態系の破壊のほか大規模な森林火災を起こしている。
- ・ 世界で生産された洋服の約6割が廃棄されている。
- ・ 海に流れ込んだマイクロプラスチックを魚が食べ、その魚を人間が食べ健康被害が起きている。

気候変動による様々な問題が、今まさに自分たちの目の前で起きていることを知り、聴講した全員が危機感を抱いたと思います。そして、私たち一人ひとりが意識改革をすることで未来を変えていける、私たちの選択が未来を変えるのだと、生徒たちは同世代の環境活動家・露木志奈氏の講演によって強く感じた様子でした。

生徒の感想

- ・ 健康にも良いビーガン食を、これから取っていったら良いなと思った。
- ・ たくさんの衝撃的な画像を見て、話しを聞いて、改めてこの問題は他人事ではないのだと痛感させられた。未来を守るために自分たちがすべきことがより明確になった。
- ・ 「大人になるまで待たなくていい」や「今日の選択が明日の世の中をつくる」という言葉が心に響いた。思いついたら直ぐに行動を起こす人は格好良いと思ったし、それはとても大切だと感じた。
- ・ 肉食は、乗り物の排気ガスよりも二酸化炭素を排出すると知り、意識を変えなければならないと思った。

教員研修会・山岸充氏による講義

～タイムリーさばえ～鯖江の今と可能性の概論

令和3年7月1日(木)、教員研修会が行われました。先ず教員が一堂に会し、指導力向上のための活動内容を確認し、グループごとに打ち合わせを行いました。教員の指導力向上を目的とし、授業の公開や外部講師による研修会の開催など方向性は昨年度から継続し、より成果を見出せる授業の創造に教員全員が取り組みます。

グループごとに相互の授業公開等を確認した後、株式会社わどう 代表取締役 山岸充氏をお招きし、教員研修講義を行いました。

山岸氏は1990年東京生まれ、5年前に鯖江にIターン移住をし、今秋には第一子誕生の予定で教育は専らの関心事。バスケットボールなどの地域スポーツ活動も盛んに行っており、鯖江高校が今後、地域鯖江とどう連携を取って

いくか？生徒が何をどういうところで学ぶか？を軸に、鯖江の今と可能性の概論をテーマに講義していただきました。



地域づくりのまち鯖江

全国的にも鯖江は地域づくりで有名で、山岸氏が一番最初に鯖江に遊びに来た時、市役所や地元めがね企業、まちづくり団体など、鯖江の雰囲気がとても面白いと感じ、鯖江旅行に来た帰りに「ここに移住しよう！」決断したそうです。

鯖江の名前の由来から、継体天皇時代に越前漆器が盛んになった歴史や、幕藩体制の下鯖江藩のほか小浜藩など色んな藩が入り乱れていた珍しい地域だったため多様性が有り、色んな人が色んなことをする許容力が高いという鯖江の今の気質に繋がっていると感じている時代の流れなど、歴史から紐解く現在の鯖江を先ず講話いただきました。

鯖江の転換期となったのが1995年(平成7年)の世界体操大会。鯖江高校は体操の強豪校としても有名ですが、世界体操大会はそれまでヨーロッパ中心でアジアはおろか日本で開催されることもなく、当時人口6万人の小さな町・鯖江で開催されることとなり世界から注目を浴びました。物理的にもハードで行政だけでは追いつかず、市民約3万人がボランティアとして花いっぱい運動や駐車場整理・会場清掃など、大会を周辺からバックアップする活動に参加し、市民総出で成功させ、これが今の鯖江の雰囲気と流れにつながっているということでした。そして2010年、まちづくりの主役は行政ではなく市民だと行政が自ら宣言した条令「鯖江市民主役条例」が全国でも先駆けて施行されました。

諸藩が入り乱れていた鯖江は、他者に対しての受容力が高い多様性、そしてまちへの主体性が非常に高く、山岸氏ご自身が自分

を含めた外から来る人間が言い表せない不思議な雰囲気を感じる町だと語っていただきました。他者をスムーズに受け入れ、他者の主体性に対して応援するムードがあるため、移住者が多いのだと感じるとのことです。地域で生まれ育ちこれが当たり前だと思っていた私たちにとっても刺激的で、誇らしい気持ちにさせてもらったと同時に、益々住みよいまちに自分たちがしていくと思ひ定め、そして授業づくりにおいての主役は生徒であることを改めて感じました。

地場産業から新産業、文化・芸能・農業・教育・・・、多岐にわたってアンテナを張り巡らせている山岸氏から、プロジェクトや課題探究の材料となり得る「鯖江のおもしろいヒト！コト！」を幅広くご紹介いただき、最後に、統一さ



れたまちづくり計画をもつことと、今までの教育に加え社会へのアプローチがいかにかにできる人材を育てるか、この「都市計画」と「創造教育」が鯖江の課題であり、まちとひとの未来につながるということでした。

山岸氏の鯖江・福井に対する大きな愛を感じ、今後の授業展開への多くのヒントがちりばめられた講義を、鯖江の魅力化・活性化に役立てていきたいと教員一同気持ちを新たにしました。

多様性×まちへの主体性

「鯖江市の企業との交流会」を行いました

～ 地元企業の先進的な取り組みを知る ～

令和3年7月15日(木)、昨年度に引き続き鯖江商工会議所にご協力をいただき、1年探究科の生徒を対象に「鯖江市の企業との交流会」を行いました。この活動は、鯖江市内の企業で働く人々との交流を通して働く意義や社会貢献について考え、進路意識の向上を図ることを目的としており、今回は特に世界で活躍する企業や、最先端の技術を持つ企業に参加していただきました。交流会の流れと、参加していただいた企業は下記のとおりです。

交流会の流れ	参加企業（五十音順）
8：40～ 8：55 全体会	アイテック 株式会社
9：00～ 9：30 交流会①	株式会社 鯖江村田製作所
9：45～10：15 交流会②	タイヨー電子 株式会社
10：30～11：30 レポート作成	福井めがね工業 株式会社
11：40～12：10 発表会	ヨシダ工業 株式会社



まず生徒は希望した企業2社と交流した後、それぞれが1社についてレポートを作成しました。そして各企業のレポートを作成したそれぞれの代表2ずつによって、企業の方も参加していただいて中で、発表会を行いました。

気が付かないところに鯖江の技術

交流会では、メガネ加工やその他のこれまでの技術を受け継ぎながらも、更にその技術を進化させたり、新たなものに取り組んだりして、その技術が身近な製品のあちこちに使われ、シェアの多くをその企業で占めているものがあることを知ることができました。それらの技術や新たな取り組みは、今必要とされているものを知り、自らそれに挑戦して、試行錯誤を繰り返していくことが重要であることを教えていただきました。



また、それらの技術は国内のみならず、海外でも信頼され、製品が海外へも多く輸出されており、海外でも多くのシェアを占めているものもあります。また海外の企業と連携をしたり、会社自体も海外に進出したりしていて、地元鯖江に根ざしながら、世界各地で事業を展開して活躍している企業もあります。このような先進的な取り組みをしている企業の方と直接交流できたことで、生徒たちは、これまで知らなかったことや気づかなかったことを知ることができ、働くことの意義や、それによる社会貢献について真剣に考えることができたようでした。

鯖江を拠点に世界へ



発表会では、教えてもらったことやわかったこと以外にも、それぞれが感じたことなども発表でき、参加した企業の方々にも伝えることができました。企業の方々も、それぞれの様子を若い人たちに伝えることができ、交流できたことを喜んでおられ、鯖江には今回参加した企業以外にも活躍している企業が多くあるので、今後、地元鯖江にもっと目を向ける機会になればうれしいとおっしゃっていました。

生徒の感想

- ・ 鯖江の企業が外国に進出していることや、世界の目の不自由な人を救う取り組みをしていることは知りませんでした。グローバル化が進んできている中での効果的な取り組みだと思いました。
- ・ あまりメッキを意識してこなかったけど身の周りにも結構あるのだと思いました。鯖江高校の卒業生が開発した技術もあると知ることができてうれしかったです。

「鯖高生が探Q! my WLB (ワーク・ライフ・バランス)」

令和3年7月21日(水)・28日(水)の2日間、本校0Bで株式会社For Smile 代表取締役の加藤裕美氏を講師としてお招きし、自分のワーク・ライフ・バランス(以下WLBと略記)について考える研修会を実施しました。9名の生徒が参加しました。全員が女子生徒で、結婚や出産、育児など、自分のライフステージに合わせたWLBを考える機会となりました。

そもそもWLBってどんな考え方？

まず、21日(水)の1回目の研修会では、WLBの基本的な考え方を学習しました。WLBとは「生活と仕事の調和」であり、そのためには、①仕事と生活(家庭)それぞれを充実させることで「相乗効果」を狙うこと、②仕事と生活(家庭)のどちらかを犠牲にすることではないこと、が大切なことだと学びました。

また、自分のWLBだけでなく、パートナーのWLB、職場の同僚のWLBについても考えなければいけないこと、そのために社会全体で働き方改革に取り組むことの重要性についても学ぶことができました。



将来の自分のWLBを考えてみよう!

28日(水)の2回目の研修会では、1回目の研修会の内容を踏まえ、自分のWLBを考えるグループワークを行いました。グループで年齢や仕事、家族構成などを設定し、こんな仕事や会社だったらいい、パートナーとこんな関係をきずけたらいい、など、自分の理想のWLBについて考えを深めていきました。「子どもが体調を崩した時に気楽に仕事を頼める関係性を維持したい。そのために普段から社内旅行やバーベキューなどをして職場の仲間意識を高めるような会社が理想」「子育てや教育の方針について普段から話し合えるパートナーとの関係を築きたい」など、今の高校生が考える仕事や家庭生活についての正直な意見が出され、参加者みんなで共有しました。また、結婚すれば妻となり、出産すれば母となるが、それでも自分らしい自分であるために、自分の時間を大切にすることとパートナーと常に話し合いをすることの重要性についても確認しました。

最後に、講師の加藤氏から、「自分が就職したときより格段に社会は良い方向に変わってきている。あなた達が声をあげ、発信していくことが、社会の変化を加速させる。そうすることで、後輩達のもっと良い環境の中で仕事も家庭も充実した人生を歩むことができるようになる」とのメッセージをいただきました。

今回の研修会は、鯖江市が積極的に取り組んでいるSDGsの「ジェンダー平等」だけでなく、「働きがい」や「パートナーシップ」にも深く関わる内容で、普段の学校生活の中ではなかなか考えることができないもので、貴重な機会となりました。なお、この研修会の内容は鯖江市が発行する「広報さばえ」の10月号から5回の連載記事として紹介され、鯖江高校の取組みが広く発信されることになっています。



「高校生課題研究ワークショップ（仁愛大学にて）」

令和3年7月31日（土）に、本校と連携協定を締結している仁愛大学にて「高校生課題研究ワークショップ」が実施されました。本校からは2年探究科の生徒が参加し、仁愛大学の3名の先生方に課題研究の「技」を教授していただくとともに、武生高校と武生東高校の生徒と一緒に、課題研究についての理解を深めました。

Session1. 問いを立てる「技」

高野先生からは、問いの立て方について説明していただきました。カレーを例に挙げ、良い問いを作るには、①すでに調べられていないか？②調べる手立てがあるか？③部外者にも関心をもってもらえるか？の3点が重要だと教わりました。また、研究とは面白いと同時に、しんどい営みでもあるため、自分自身が興味をもてる問いを作ることが大切であると学びました。



Session2. 調査方法の「技」

織田先生からは、調査方法について説明していただきました。「調査をすることは、迷惑をかけること」を念頭に、問いに答えるには、どのようなデータをどのような方法で得るのかをしっかりと計画し、プリテストを行うことが大切であると教わりました。ワークでは架空のアンケート項目の改善点をグループで話し合っ理解を深めました。

Session3. 発表の「技」

西出先生からは、発表方法について説明していただきました。課題研究の過程に沿ったポスターやスライドの構成や、①コントラスト（伝えたいことを色・サイズ・フォントで目立たせる）②グルーピング（配置・線・行頭記号で見えなくくりを意識させる）③イラストレーション（文字よりも図解で視覚的に理解させる）の大切さを、事例を通して教わりました。



今日の振り返り

3校混合のグループで今日のワークショップで学んだことを振り返り、ポスターにまとめました。日々の課題研究で感じている疑問や悩みに加え、課題研究に取り組む意義についても、盛んに意見交換が行われていました。

【生徒の感想から】

- 問いの立て方から調査方法、発表方法までのポイントを教えていただき、理解が深まった。
- 初心にかえり、課題研究とは何なのか、どのように進めていけば良いのかを考え直すことができた。
- 他校の生徒との交流では様々な考え方を知ることができ、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができた。
- 今日のポスター作りのように、仲間の意見を聞くとともに、自分の意見も伝えられるようになっていきたい。
- 答えのない問いに、自分自身で正解を出していく大切さを改めて感じる事ができた。

日本の伝統芸能“人形浄瑠璃”の魅力を探る

～最終回～

令和3年9月27日(月)4限目、選択音楽を受講する3年生が、体験授業を行いました。鯖江人形浄瑠璃「近松座」の大橋國利さんをはじめ団員の皆さんをお招きし、今回が最終回となる人形浄瑠璃体験授業です。

人形浄瑠璃にふれる授業は、1年生の時に動画を鑑賞し、2年生に入ってから体験を始める予定でした。しかし、新型コロナウイルスの影響で体験がなかなか始められず、今年の2月に初めて「近松座」の皆さんからご指導を仰ぐことができました。その後も体験の日程が延期になるなどしましたが、各々が少しずつ人形浄瑠璃についての学習を重ね、6月に2回目、そして今回最後の体験授業を行っていただくことができました。



人の感情・優しさ・思いやりを表現

まず、これまで練習してきた「けいせいあ傾城阿波鳴門じゆんれい巡礼歌の段」の、太夫・三味線・人形遣い、それぞれの復習をし、そして更に細かい部分にわたり丁寧に指導していただきました。

人の感情、優しさ、思いやりを如何に表現するかを、講師の皆さんの優しさや思いやりを肌で感じながら、真剣に



そして楽しく練習している生徒たちの姿が印象的でした。授業の最後には立派に生徒たちだけで演目を披露することができ、近松座の皆さんから

- 覚えも早く素晴らしい。
 - 近いうちにまた一緒に練習をしたい。
 - 皆さんと競演するという夢が湧いた。
- との講評をいただきました。

生徒たちは、自分の表現に活かすことを体得し、今後の人生にひとつ「深み」が増すように感じました。他教科の授業でも、伝統工芸に触れることで、授業に活気がでるのではないかと思います。



生徒の感想より

- 人形の顔の動きや手の動きだけでなく、自分の表情も考えながらやると更に良いと思った。とても楽しかった。
- 発表中も講師の皆さんが横の方と一緒に動きをしながら観てくださって、とても嬉しかった。
- 最初は何をどうすれば良いか全く解らなかったが、自分の役割や、話の内容をしっかりと理解し、どう工夫すれば良くなるかを考えて表現できるようになったと思う。とても貴重な経験となった。
- 自分の表現力の幅が広がったと思う。今後の音楽活動などにも活かしていきたい。発表後には達成感があった。



鯖江市 SDGs 探究プロジェクト

～総合的な探究の時間～

令和3年10月18日(月)、普通科2年生が6人前後の課題探究34グループ・動画作成1グループに分かれ、鯖江市内で働く人々への取材を通して、持続可能な社会の実現に向けた鯖江市の課題を見つめ、高校生としてできることを考え実践していく探究活動を行いました。

事前に鯖江市や企業の取り組みについて調べ、聞きたいことをグループでまとめ、来校いただいたりオンラインや各事業所・商工会議所で、各グループ25分間、事前にまとめた内容の他、話を聞きながらより掘り下げて知りたいと思ったことなどをインタビューしました。



インタビュアーの学び・気づき

担当の方には一つ一つ丁寧に、実体験などを交えながら質問に答えていただき、生徒たちは生の声に興味深く楽しそうに聞き入り、良い刺激となっている様子でした。気さくに受け答えをしていただき、堅苦しくないながらも生徒の質問に熱心に答えていただき、終了予定時刻を過ぎても交流が続くグループもありました。

また、生徒たちのインタビューに答えるだけでなく、生徒それぞれに考えさせて意見を述べさせるなど、生徒がその場で活動できるよう工夫していただいたり、質問につまった生徒には、逆に色々質問を投げかけていただいたり、皆さんに助けられながら、多くの学びの場となりました。

鯖江の伝統産業・眼鏡製造業にインタビューしたグループは、原材料や細かな部品の製造・加工の過程、流通に関することや、今どういう商品が求められているかなど、丁寧に詳しく教えていただき、伝統を守りながら新しいことにチャレンジし続ける鯖江の企業努力などを知ることもでき、今地域に支えられている自分たちが、地域を支える立場になる未来図を創造し得る有意義な時間となりました。



自分の知識や経験が豊かであれば、相手からより意味のある情報を引き出す質問ができるという気づきもあり、今学校で学んでいることを将来どのように活かしていくことができるか、改めて考えるきっかけにもなったと思います。

そして、お忙しい中時間を割いてくださったことに対する感謝の気持ちや、関心や尊敬、信頼の念をもってインタビューさせてもらうことによって、より生きた情報、より深い情報を得ることができると手応えを感じていたようです。

伝統を重んじるグローバルな人材育成



それぞれインタビューを終え教室に戻った生徒たちは、いただいた資料やインタビューメモを整理し、11月19日(金)の中間発表に向けてスライドや原稿の作成に取り組みました。自主性・協調性・主体性などが求められるグループワークに夢中に取り組み、グローバルな人材育成の観点からも大きな成果が期待される活動となりました。



第1回運営指導委員会ならびに公開授業を行いました ～2年探究科 課題研究 中間発表会～

令和3年11月2日(火)、地域との協働による高等学校教育改革推進事業第1回運営指導委員会ならびに公開授業を行いました。今回の公開授業では、2年探究科の授業を参観していただきました。

理系・文系に分かれ、各個人または2～3人のグループが、それぞれのテーマについての問いを設定し、仮説(予想)を立て、実験や調査によって結論を導き出すという課題研究の中間発表会を行いました。スライドにまとめた内容をスクリーンに映し

課題研究のみちしるべ

出し、もち時間5分での発表会でした。生徒たちはやや緊張した面持ちながら、大勢の前で発表をするという事に慣れてきた様子でした。

発表毎に仁愛大学の西出先生・織田先生・高野先生に、良かった点や改善すると良いなどをポイントを押しえて助言していただき、これからの課題研究に明確な道しるべをいただきました。

「効率の良い換気の方法とは？」という問いを立てた生徒は、コロナが流行している中で換気的重要性に着目しました。一時間に一回、教室の換気を行って二酸化炭素濃度を測定し、データを基に換気は重要であるという結論を出しました。また室内に滞留する二酸化炭素の危険性を調べ、今後効率の良い換気方法を実験していきたいということでした。

西出先生より、将来自分が行きたい方向からテーマを選ぶのはモチベーションも上がりとても良いこと、データを基に数値化する再現性はとても重要で、結果に客観性ももって大変に説得力がある、との言葉をいただきました。また、問いに対して導き出した結果が問いの答えになってない場合には迷わず問いを変えればよい、との逆転の発想に

は生き方が楽になるような精神論も含まれていたように思います。

探究活動では、コミュニケーション能力やいろいろな力が知らない間についている、これからの活動を楽しみにしているとのエールをいただきました。

公開授業を運営指導委員会の方々にはさまざまな観点・角度から参観していただき、運営指導委員会ではそれぞれの立場から以下のような指導・助言をいただきました。

- この探究活動を、学習として単にやったというだけでなく、是非公表をしてもらいたい。そうすることによって企業から評価をいただき、課題に取り組んだ責任を果たすことになる。
- 課題を見つけるテクニックは上手くなったが、自分と周りとの関わりが見えづらかった。自分と地域社会との関係性を考えられると、自分たちで課題解決に挑み社会をつくらうとする。
- 質問者は手を挙げて自主的に質問をするべき。的確な質問をして、相手をやりこめるのではなく、問題点をえぐり出すことが重要。

問題点をえぐり出す

今後またこれらのご意見を取り入れながら、地域協働事業が充実したものとなるよう取り組んでまいります。



「高分子」は身近な素材 ～日華化学の技術に学ぶ～

3年 化学 特別授業

令和3年11月17日(水)、3年生の化学の授業で「高分子」に関する特別授業を行いました。講師として日華化学株式会社より界面科学研究所フェローの松田光夫氏をお招きし、これから授業で扱う「高分子」について興味をもって学習していけるように、高分子にはどのような特徴があり、どのように活用され製品化されているのかなど、実際に日華化学で取り組んでいることについて講義をしていただきました。



繊維加工と高分子



日華化学では、有機合成・高分子・界面制御技術を使って、さまざまな製品開発を行っており、今回の特別授業では、これから学ぶ「高分子」の内容に合わせて、繊維加工について、その特徴や製品などについて説明をしていただきました。すでに学習した「親水基」と「疎水基」のはたらきを復習し、それらの配列を変えることで、「湿潤・浸水」と「撥水」や、「起泡」と「消泡」のように逆の効果を発生させたり、「洗浄」や「乳化」、「潤滑」、「抗菌」など目的や用途に応じて様々なはたらきのあるものを設計して作り出すことができることを教えていただきました。また「モノマー」と「ポリマー」を人の形の図で表して分かりやすく解説して、様々な高分子の構造について基本的なことを教え

ていただきました。現在、日華化学で開発している繊維加工について、これらの仕組みがどのように使われているのか、それによりどのような効果があるのかを、具体的に説明していただき、授業で学習する「化学」の内容が、身近なものに応用され、実際に社会や人々の生活に役に立っていることに気付くことができました。「シリコン系柔軟剤」では疎水基を外側に向けて配列することにより、疎水基同士の滑りあいにより摩擦係数が低減し、柔軟な感触を与えることできることや、「綿用染料固着剤」では染料とフィックス剤がイオン結合によりしっかりと固着することなどを、分かりやすい図を使って解説していただきました。

つくる責任 つかう責任

製品開発の一方、高分子の課題についても説明していただきました。高分子化合物であるプラスチックは自然には分解されず、海洋プラスチックごみ問題など、世界規模で問題となっています。SDGsの目標でもある「つくる責任 つかう責任」を考え、日華化学でも環境に配慮した研究や製品開発にも積極的に取り組んでいることを説明していただきました。そしてサステナブルな世界を実現する手段として「電気を通す高分子」や「生分解性の高分子」、「命を救う高分子」の開発など、いくつかの例を挙げて高分子の未来について提言をしていただきました。



生徒から質問

生徒から「部活動で使っているサポーターが蒸れて不快なのですが」という質問が出されました。それに対してサポーターの素材と蒸れる原因について説明していただき、水は通さないが水蒸気は通す素材があるので、今後はサポーターなどにも応用できるかもしれないと教えていただきました。また蒸れることでにおいが発生したりするが、菌をコントロールする素材も開発されているので、その技術も応用できるかもしれないと付け加えて答えていただきました。

地域との協働授業「みんなの未来にエシカル消費」

～2年探究科英語～

令和3年11月10日(水)、2年探究科英語の授業に、鯖江市役所総務部の山田眞美子氏、森川瑞代氏をお招きし、地域との協働授業を行いました。生徒は英語教科書の「What Is the True Meaning of *Mottainai*?



ました。

キーワードは【エシカル消費】

“使い捨ての箸の使用を全てやめるべき”“エコバッグを使おう”など、環境に優しいとされている事柄は、果たして全て正しいでしょうか。環境問題を一時的な流行としてでなく科学的にとらえ、消費者としてどのように考えて行動すべきかを、これまでの英語の授業で学んできました。今回の講義では、人や社会、環境、地域に配慮した物やサービスを選んで消費する【エシカル消費】をキーワードに、教科書の内容の復習と、実例を交えながら鯖江市の取り組みについて学びました。

What Is the True Meaning of *Mottainai*?

「もったいない」を意識することは今やトレンドとなっていますが、その本当の意味を理解しているでしょうか?という問いから講義は始まりました。

今まで割り箸を使うことは森林破壊につながるといった認識がありましたが、樹木を間伐することにより立派な丸太を育てたり、森林の整備や林業の活性化、また地滑りを防ぐなどの効果もあります。実際鯖江市は、建築などに使えない端材や間伐材を活用し割り箸を作る事業に取り組んでいて、実物も見せていただきました。



また“エコバッグを使う”ことは当たり前のように推奨されていますが、実際はエコバッグを生産するためにより多くの石油を必要とする場合があるということでした。現在は石油資源の節約とCO2削減が実現できるバイオマス素材配合率が25%以上の買物袋もあり、実物を用いて紹介していただきました。



こうした観点から、我々消費者がとるべき行動の一つとして、環境問題などに配慮した商品につけられる様々なエシカルマークを知り、そのマークのついた商品を購入することを学びました。マークを一つ一つ紹介いただき、皆さんの身近な商品を手にとってマークを確認したり、エシカルマークのチャレンジマップ作成のグループワークを行ったりしながら、生徒たちは、更に環境問題やエシカル消費への意識を高め、自分達の行動について考えを深めました。

生徒の感想より



- 実物を用いての解説が、イメージがつかみやすく理解しやすかった。これからはマークの付いた商品を探して買うようにしたい。
- 今まで想像もできなかった観点から、環境について考えることができた。自分たちができることをコツコツ行い、未来の自分たちが生きやすい世界を、自分たちでつくっていききたい。



「鯖江市 SDGs 探究プロジェクト」中間発表会

～普通科2年生探究活動～

令和3年11月19日(金)6・7限目に、普通科2年生「鯖江市 SDGs 探究プロジェクト」中間発表会を行いました。アドバイザーとして鯖江市役所総務部より高崎課長・川江参事、鯖江市役所政策経営部より田中課長・藤田主査、さばえ SDGs 推進センターより関本所長・仲倉副所長の、6名の方にお越しいただきました。

6会場に分かれ、1グループが、発表6分→質問2分→助言4分→評価感想記入3分の15分サイクルで報告を行いました。進行は生徒たち自身が行いました。

10月の取材でお世話になった事業所の方や学校関係者など多くの方に参観していただき、発表についての助言・感想を付箋に書いていただきました。様々な角度からの評価は、最終発表会に向けて生徒一人一人がバックアップされ、より意味深いプロジェクトになると感じた発表会でした。

鯖江市が抱える問題について

全34グループが選んだテーマは、めがね産業について、ジェンダー平等について、フードドライブについてなど、全て地元鯖江市で取り組まれている活動であり、その背後にある問題に着目しています。

「鯖江市の女性の働き方」をテーマに発表したグループは、10月に川江参事と株式会社わどうの山岸社長にインタビューした経験を踏まえ、「女性の働き方や子育てについての、歴史と鯖江市の現状。ジェンダー平等や女性活躍のために、自分たちはどうすればよいか。」について発表しました。

「なぜ女性を活躍させたいのか？」という疑問に「自分目線の活躍でなければ生きづらくなる、そのため自分目線での活躍が大切。」という回答をいただいたため、「自分でやりたいことを見つけるほうが将来幸せになる。自分自身でやりたいことを選び、自分のしたいことに挑戦することが大切である。」と、まとめました。山岸さんが見に来てくださっていることに気づいた生徒は、発表を終えてすぐ「発表どうでしたか？」と、生き生きとした表情で駆け寄りました。山岸さんから「一番大切なところを自分たちでしっかり整理してまとめられていて、正直驚いた！」というお褒めの言葉をいただき、生徒たちもほっとした様子でした。地元の方が生徒たちの可能性を最大限に引き出す色々な工夫を凝らして一緒に考えてくださるなど、多くの温かい支えがあってこそこのプロジェクトだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。



助言・感想の一部

●現状を改善するために、高校生として地域や社会を巻き込みながら何が出来るかを示せるとさらに良かったと思う。

●鯖江は、眼鏡の政策はよく聞くが、目を良くしようとする動きは初めて知ったので新鮮だった。眼鏡をつくる街だからこそ、目の大切さをよく分かっているのだろうと感じた。

●インタビュー内容はとても良かったと思う。課題解決の焦点がもう少し明確に絞れると次の一歩が見えると思う。

●発表中の「家事を手伝う」は「家事をシェアする」に変更すべき。家事にジェンダーがないことを理解しよう。

●自分たちの研究の焦点(なぜ自分たちは～について調べたいのか?)を大切にしてほしい。

●強調したい大切なメッセージだけは、文字を大きくするなど強調して力強く発表すると、聞いている人に大切なポイントが伝わる。



放射線とはどのようなもの? ～放射線の観察～

3年 生物 特別授業

令和3年12月7日(火)、3年生の生物の授業で「放射線」に関する特別授業を行いました。講師として日本原子力発電株式会社より佐藤穰氏と池田龍子氏をお招きし、環境教育の一つとしてこれまでに授業で学習した「放射線」について、正しい知識と興味をもてるように、実験と観察を行いながら特別授業をしていただきました。

自然界に存在する放射線

最初に、佐藤氏に放射線について授業の復習も兼ねて、基礎的な知識から説明をしていただき、放射線が特別なものではなく、身近に存在していることを教えていただきました。まず、放射線は自然界に存在していると説明を受けました。放射性物質は大地や空気中にも存在し、宇宙からも届き、食物中にも含まれているもので、私たちは常に放射線を受け生活していると教えていただきました。また一般的には危険なイメージがある放射線ですが、医療器具の滅菌やがん治療、X線検査などの医療分野や、タイヤのゴムの強化、土器の年代測定、ジャガイモの芽止めなど、様々な分野で広く活用されており、私たちの生活に非常に役に立っていることも教えていただきました。

最初に、佐藤氏に放射線について授業



放射線を観察しよう!



実際の放射線は目に見えないものですが、過冷却したアルコールの蒸気の中を放射線が通過すると、その軌跡が目に見えるので、放射線の動きを観察することができます。そのための実験装置「霧箱」を自分たちで作って観察する方法を池田氏に指導していただきました。実験装置はプリンカップやウレタンテープなど、身近な材料で比較的簡単に作成できるので、生徒たちも楽しみながら作成していました。しかし、いざ放射線の観察をしようとすると、うまく見える班とそうでない班があり、なかなか苦戦していた班も多かったようです。でも実際に放射線が四方八方に飛んでいく動きが観察できて、生徒たちは声を上げて喜んで観察していました。

実際の放射線は目に見えないものですが、過冷却したアルコールの蒸気の中を放射線が通過すると、その軌跡が目に見えるので、放射線の動きを観察することができます。そのための実験装置「霧箱」を自分たちで作って観察する方法を池田氏に指導していただきました。実験装置はプリンカップやウレタンテープなど、身近な材料で比較的簡単に作成できるので、生徒たちも楽しみながら作成していました。しかし、



放射線を遮断するには?

次に、放射線は飛散する距離によって減衰し、遮蔽するものによって透過する度合いが異なることを確かめる実験を行いました。放射線源から4方向に放射線測定器を設置し、距離が離れるにしたがって測定値が小さくなることと、放射線源に4種類の板で作られた遮蔽物をかぶせ、それぞれの方向で測定値が異なることを確かめました。

次に、放射線は飛散する距離によって減衰



正しい知識で、正しい判断

生徒たちは、この特別授業で、放射線に関する正しい知識を身につけることができたようでした。授業の最後のあいさつでは「今日はいっぱい放射線について学べてよかったです。私は将来、放射線のある所の近くで住むのなら、鉛で家を作りたいです。」とユーモアを交えて謝辞を述べ、非常に楽しい中にも、貴重な経験ができた充実した授業を受けることができました。

めいく 「眼育さばえ」ビジョントレーニングを体験！

～普通科2年生 SDG s 探究活動～

令和3年12月16日(木)の午後に、普通科2年生「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の活動で「眼育」をテーマにしているグループの生徒(39名)が、目の健康体操やビジョントレーニングなどの体験をしました。「眼育」とは鯖江市が「めがねのまち」は「目にもやさしいまち」でありたいという思いから取り組んでいる活動で、今回は鯖江市と連携して活動するNPO法人「みるみえる」の方々にお越しいただき、生徒たちに直接ご指導をしていただきました。

まずは目の健康体操



まずはじめに、ビジョントレーニングインストラクターの坂井晴香氏に、鯖江市オリジナルの「目の健康体操」を準備運動としてご指導していただきました。生徒たちは坂井氏の動きに合わせて腕を前に出し、親指を立てて、親指にしっかりとピントを合わせて眼球だけを動かすなど、楽しそうに体全体を動かして、これからのトレーニングに向けてしっかりと準備体操に励みました。



いざ、ビジョントレーニング！



ビジョントレーニングは専用の機器を使い、大型モニターに映し出される映像を指でタッチするトレーニングが何種類もあり、動体視力や空間認識などの能力を測定し、トレーニングすることができるものです。このトレーニングで脳を活性化させ、集中力や判断力を鍛えることができ、スポーツ選手のトレーニングにも活用されています。インストラクターの橋詰公人氏の指導のもと、8人程度のグループごとに順番でビジョントレーニングの体験をしました。生徒たちは楽しそうに、また真剣に取り組んでいて、測定結果や判定が出るたびに歓声が拍手が起っていました。中にはプロのスポーツ選手並みの測定結果を出した生徒もいて、非常に盛り上がった体験活動でした。

ブロックストリングスも体験

順番が回ってくるまでは、加藤裕之氏のご指導のもと、丸い球を通したひもを使って、二人一組になって、ブロックストリングスの体験を行いました。ブロックストリングスは両眼が正常に働いているかを知ることができ、両眼視を鍛えることができるトレーニングです。はじめのうちは、生徒たちはなかなか分かりにくそうでしたが、やり方が分かってくると、ひもについている丸い球に視線を集中させて、真剣に取り組んでいました。

ビジョントレーニングの



～生徒の感想～

- ビジョントレーニングをしてみて、画面上の点が見えていても的確にタッチできなかつたり、空間認識では正確な場所を絞れなかつたりしたので難しかったです。
- テニスは動きながらボールを追うので、空間認識や動体視力が大事です。これから見え方を意識したトレーニングもしていきたいです。

世界を模した「2030SDGs」カードゲーム体験

探究科1年総合的な探究の時間

令和3年12月17日(金)、総合的な探究の時間に、探究科1年生がカードゲーム「2030SDGs」の体験を通して、世界中で行われている持続可能な世界の実現の取り組みとその影響について考える学習をしました。今年度も「エコネットさばえ」の榎原秀典さんをファシリテーターとしてお迎えし、地域協働事業の一環として、地域にいながらでも可能な具体的な行動について学び、自分自身の行動について考える機会をもちました。

やりがい!情熱!お金!時間!

生徒38名が13チームに分かれ、与えられたお金と時間を使ってプロジェクト活動を行います。プロジェクトを達成すると別のプロジェクトカードを得て、世界の状況メーターに変化が加えられ、最終的にそれぞれのチームの目標と世界のSDGs達成を目指します。「大いなる富」が目標のチームは、ゲーム終了時にお金を1,200G以上持っていたら目標達成、「貧困撲滅の聖者」が目標のチームは、青の意思(やりがいや情熱)を10枚以上持っていたら目標達成となります。

クラス全員で創り出す世界の経済・環境・社会の状況を表す3色のマグネットがそれぞれ10個以上で、皆で創りあげた世界のSDGs達成となります。

一人のアクション、世界が変わる

ゲームのスタートは2016年、前半9分の終了時点で2023年の世界ができあがります。前半は、まずは各チームが自分の目標に向かってプロジェクトを実行していました。順調に目標に向かうチーム、なかなかゴールが見えないチーム、その中で世界の状況の変化にハッとした表情を見せて相談を始めるチーム、それぞれのチームが村や地域や国となって世界を変えていきました。

前半を終了し、2023年の世界は経済24・環境1・社会1、目標を達成したチームは4チームでした。経済活動は絶好調の反面、環境はゲリラ豪雨や大型台風の多発など危機的状況、社会は分断し絶望的な状況です。前半を踏まえての後半13分では、他のチームと議論したりカード交換の交渉をしたり、またプロジェクトの共同実施を呼びかけるチームもあり、一人ひとりが活発に行動をおこし、世界全体がとても盛り上がりました。



結果後半を終えて2030年の世界の状況は、経済19・環境11・社会12でSDGs達成!目標を達成したチームは12チームでした!

榎原さんとゲームを振り返り、前半と後半で変わったこと、もっとどうしたら良かったか?意見を出し合いました。各々のチームができること(もっているもの)をオープンにしたら、全チームが目標達成できたし、より連携した大きなプロジェクトが達成できた、との意見に、現実社会と通じるものを実感している様子でした。



生徒の感想

- 人と人・国と国が対話し協力することで、個人の目標達成やSDGs達成ができると思った。
- 皆が幸せであることが自分の幸せになると気付いた。
- 経済・環境・社会、バランスを保ちながらの向上は難しかった。
- お金の目標に固執していたら時間がなくなった。バランスが大事だと思った。
- 1チームだけ目標達成ができなかったけれど、他の全チームが協力すれば、その1チームを助けることができた、社会でも同じことが言えると思う。
- 全世界が協力することがSDGs達成の近道だと感じた。



消費者教育 出前講座 探究科1年 地域協働事業

令和4年2月21日(月), 鯖江市消費生活センター 相談員 清水優子氏, 鯖江市市民相談課 参事 山田真美子氏をお招きし, 探究科1年生の地域協働事業の一環として出前講座を行いました。

まず, 洋服や携帯電話を買う, コンビニでプリンを買う, 将来家や車を買うなど, 全てが消費活動であり, そこに契約が生じ責任も生じてくることを説明していただきました。

そして中学生から20代前半が詐欺にあいやすいという, 脱毛美肌・痩身スモーグーの広告が示され, 問題と思われる表示をグループで出し合う作業を行いました。実際鯖江市内だけでも, 月に2件以上の契約トラブルによる相談が寄せられているそうです。

不当表示広告として ●効果には個人差があるはずなのにその記載がない
●“あの有名人・アスリート”と書かれているのに名前が記載がない, など, しっかりと問題点が挙げられました。

商品を購入するとき, 契約をするときに, HPアドレスや広告の写真を残す, 電話番号を確認するなどの癖づけをしてほしいということでした。HPアドレス https の s が付いてなかったらセキュリティが危ういことなども学びました。

一度立ち止まって考える

清水相談員のところにも, 美容関係の相談がとても多いそうです。体の仕上がりは保証されない上に, 絶対に元に戻すことはできない。施行に伴うリスクもよくよく考えて, 一度立ち止まって考えることが大切である, そして新成人18歳以上は親の同意なく契約履行できるが, 同時に未成年者取り消しができないリスクも負っていることなどを, 親身に講義していただきました。近年世間話や恋愛からライン交換をし契約をしてしまった, などのトラブルが数多くあり, 法律も社会も追いついてない事例がたくさんあるそうです。アンケートを元に自分がピンポイントで狙われたり, よく分からない投資に誘導されるなど, 常に危機意識をもつことが大切ということでした。

一定の期間内であれば無条件で契約を解除できる制度“クーリングオフ”は, 訪問販売や電話勧誘販売では使えるが, 自分の意思で契約を行う通信・ネット販売では使えない, 生徒から質問のあった, メルカリなどの個人取引やオークションサイトでもクーリングオフ制度は使えないそうです。

きっぱりと断る

まとめとして ◆よく分からない時には必ず複数人で契約を確認する ◆よく調べて納得をした上で契約を行う ◆我慢することも肝要 ◆きっぱりと断る, など確認しました。



何かおかしいと感じたら直ぐに, 消費者ホットライン【188】, 若しくは消費生活センターに迷わず連絡してほしい, そして万が一が家族が被害にあっても絶対に責めない。家族に責められることが騙されるより何よりつらい(!)ということでした。

後半は, 山田参事よりエシカル消費についての講義を受けました。鯖江市が取り組んでいる事業である, 建築などに使えない端材や間伐材を活用した割り箸を一人一膳いただき, 生徒は温もりの感じる割り箸を手に取り, 取り組みを肌で感じてました。

エシカルマークをグループで確認し, 最後にフードドライブ事業について学びました。鯖江市ではフードドライブ事業を昨年12月に3回目を行い, 使わない食品や備蓄品を商工会議所や農協, 自衛隊などの色んな事業所や個人から集めて, 必要としている施設や個人にお分けしたそうです。2500点以上の食品, 500キロを超える米が4日間全て午前中でなくなる程, 需要が多いということでした。次回は6月に行う予定で, 家で使わない食品, 余っている食品を持って行って少しでも鯖江市の事業に協力したいと生徒は感想をもちました。



こどもたちに伝えたい「SDGs」

普通科2年 鯖江市SDGs探究プロジェクト

令和4年2月25日(金)、普通科2年生が取り組んでいる「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の一つとして、惜陰小学校とオンラインで接続し、小学3年生のこどもたちに鯖江市のSDGsの取組みについて知ってもらう交流会を実施しました。

はじめての小学生との交流

鯖江高校普通科2年生は、これまでに鯖江市や地元の企業の協力を得ながらSDGsを啓発していく活動をしてきました。その取り組みの一つとして、小学生にもSDGsについて知ってもらうために、本校のすぐ近くにある惜陰小学校3年生との交流会を計画しました。小学生との交流会は、本校でははじめての取組みで、生徒たちもいつもの発表とは違った対応をすることに少し戸惑いもあったようですが、小学生にあわせた内容や方法を考え、意欲的に準備をしてきました。当初は高校生が小学校に訪問し、紙芝居やクイズ、廃材を利用したおもちゃなどを使って、小学生と直接触れ合って交流をする予定でしたが、コロナ禍の影響でオンラインでの実施となってしまいました。しかし、大画面のスクリーンに映し出された姿やスピーカーから聞こえる歓声から、本校の生徒たちも惜陰小学校の児童たちもとても楽しく交流ができたようで、充実した交流会となりました。

鯖江高校普通科2年生は、これまでに鯖江市や地元の企業の協力を得ながらSDGsを啓発していく活動をしてきました。



SDGsって知ってる？



今回の交流には6グループが参加し、SDGs啓発動画をはじめ、環境問題・食品ロス・ごみ問題・眼育について、小学生に分かりやすいように、スライドのイラストや文字などの工夫をして発表しました。

まずは「SDGsって知ってる？」という質問から始まり、それぞれのグループが小学生の様子を見ながら説明をしていきました。小学生がメモをとりながら説明を聞き、クイズや質問のときはみんなで手を挙げて反応してくれるなど、真剣にそして楽しく活動に参加してくれたので、高校生たちもとても満足そうでした。

この交流会を通して生徒たちは、誰に向けてプレゼンテーションをするのかをしっかりと意識し、聴衆に合わせた内容や話し方を考えて実施することが大切だということに気づけたようです。今後また、別の活動でも小学校との交流を続けていきたいと考えています。

小学生の感想より

・SDGsはあまり興味がなかったけど、動画を見て詳しく調べたくなりました。

- ・ごみのリサイクルが10%しかできていないので、もっと気を付けたいと思いました。
- ・9人に1人が飢餓に苦しんでいることが分かり、募金とかで手伝いたいと思いました。
- ・いつも捨てていたペットボトルについて、使えるものは工作とかで使いたいと思いました。



実践活動報告会

普通科2年 鯖江市SDGs探究プロジェクト

令和4年3月17日(木)、普通科2年生が1年間取り組んできた「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の集大成として、総合的な探究の時間に実践活動報告会を公開しました。

コロナウィルスの感染拡大の影響により延期となりましたが、7会場(7教室)に分け、7名の助言者の皆さんにはGoogle Meetによるオンラインでご参加いただき、無事に行うことができました。

6人前後のグループに分かれ、発表 → 質問 → 助言 → 評価感想記入の約15分サイクルで報告を行い、今年度の活動を振り返りました。鯖江市のSDGsを意識した探究活動のテーマはグループ毎に「フードドライブについて」「眼育について」「男女共同参画について」「ゴミ問題について」など様々です。

オゾンホールと眼育!?

「眼育活動の影響・効果について」をテーマにしたグループは、【SDGs目標3】すべての人に健康と福祉を【SDGs目標4】質の高い教育をみんなに、を意識して問題に取り組みました。

2050年に近視割合が50%を超える恐れがあるという研究結果から、それを防ぐにはどうしたら良いか? 目の健康推進を図るにはどうしたら良いか? 調べ学習を始め、目の異常には色々な原因が考えられるが、そのうちのひとつとして、フロンガスによってオゾン層が破壊される → オゾンホールが発生する → 紫外線が大量放射される → 目に悪影響を及ぼす。と、様々なデータから、“フロンガスの発生が私たちの目の異常を引き起こすことに繋がる”と結論を導きだしました。



就学前の5歳児の視覚検査では、約3分の1の児童に視力低下や異常がみられるそうです。スマホを使い始めた年齢と、視力が下がり始めた年齢の統計を自分たちで合わせ、スマホ使用と視力低下の因果関係を示唆したグラフも、非常に分かりやすくまとめられ、近視防止に向けた新たな産業の創設を考えたいと締めくくりました。

とても丁寧に、論理的にまとめられていたこのグループにはBest Logic賞が贈られました。どのグループも、研究のまとめ方・スライドの作成・発表の仕方、全ての面で大変向上したと感じる発表会となりました。



苦勞と工夫を重ねて

鯖江市役所より5名、さばえSDGs推進センターより2名の助言者の皆さんからは、長い時間を掛けて、ウェブを活用したり、色々なところに取材に行ったり、苦勞と工夫を重ねてこの発表にたどり着いたのだと感じた。これからも様々なものごとに問題意識をもち、市民として声を上げてほしいとエールをいただきました。



生徒の感想より

自分たちがしてきたことを全て伝えることができ、達成感があった。

たくさんの方と協力して、深くSDGsを知ることができた。

残念ながらゴミ問題は解消されてなく、ゴミを減らせる開発に携わり、環境問題に目を向け、地域貢献をしていきたい。一人ひとりが3Rを意識することが大切だと感じた。

SABAE

high school

NEWSLETTER

Regional Collaboration

Mar.2022 / Vol.3

令和四年三月 第三号

地域協働
だより

鯖江高校

SDGs とは、人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17の目標です

鯖江高校では「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいだろう?」「SDGsの達成のために、自分はどんなことができるだろう?」一人ひとり、みんなが考えて行動することを大切に、地域と協働する高校教育のモデル、鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築し、地域資源を活用した全科目・教科でのカリキュラム開発・授業実践を全国へ発信するよう取り組んでいます。

地域と協働する事業とは

生徒が地域の皆さんに協力いただきながら、地元にも広く興味をもち理解を深め、そして

- ◇地域の伝統や文化を継承し、地域への愛着と誇りを持ち、地域の未来を育てる市民
- ◇将来の地域コミュニティを支え、多様な価値観を共有し、チャレンジ精神をもつ市民
- ◇持続可能な地域社会の形成に向け、貢献意識をもち、自ら考え行動する市民

になってもらおうという事業です。

誰一人取り残さない

SDGs ACTIVITIES OF THE YEAR



13 気候変動に具体的な対策を
環境活動家 講演会
CLIMATE ACTION
気候変動に具体的な対策を

気候変動による様々な問題が今まさに目の前で起きていることを、生徒と同年代の環境活動家の講演により具体的に知り、私たち一人ひとりが意識改革をすることで未来を変えていける!日々の選択が地球を守る!何かを始めるのに大人になるまで待たなくていい!力強いメッセージを受け取りました。

産業と技術革新の基盤を作ろう
INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



鯖江市の企業との交流会

先進的な取り組みをしている企業の方と直接交流させていただき、今必要とされているものを知り、自らそれに挑戦して試行錯誤を繰り返していくことが重要であることを教えていただきました。そして働くことの意義や、それによる社会貢献について真剣に考える機会をもちました。



8 働きがいも経済成長も
DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
WLB ワーク・ライフ・バランス研修会

自分らしい自分であるために自分の時間を大切に、パートナーと常に話し合いをすることの重要性について確認し、仕事と生活(家庭)どちらかを犠牲にするのではなくそれぞれを充実させることで「相乗効果」を狙うことが大切なことだと学びました。

What is the True Meaning of *Mottainai*?
地域との協働授業



12 つくる責任つかう責任
RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

「もったいない」の本当の意味を理解しているでしょうか?一人ひとりに問いかけ、「エシカル消費」をキーワードに環境問題を科学的にとらえ、エシカルマークを確認し、世界で起きているあらゆる問題と向き合いました。



11 住み続けられるまちづくりを
SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES
タイムリー鯖江 教員研修会

「都市計画」と「創造教育」が鯖江の課題であり、まちとひとの未来につながる。“鯖江の今と可能性の概論”をテーマに講義していただきました。

日華化学の技術に学ぶ
特別授業



14 海の豊かさを守ろう
LIFE BELOW WATER
海の豊かさを守ろう

様々な高分子の構造について教えていただき、授業で学習する「化学」の内容が身近なものに応用され、実際に社会や人々の生活に役に立っていることに気付くことができました。また高分子の課題についても説明していただきました。

Leave no one behind

2019年度より、全校生徒・全教職員を対象とした、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による、高校魅力化アンケートを実施しています。

①学習活動 ②学習環境 ③生徒の自己能力認識 ④生徒の行動実績 ⑤満足度 の5つの側面から

◎主体性 ◎協働性 ◎探究性 ◎社会性 の4つの資質・能力に関する領域に分類し

「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(他地域との比較)」の3つの軸で整理し、高校魅力化の成果を明確に可視化し、教職員全体で次の一手を考える手法を学んでいます。

①学習活動

2年生の◎主体性 ◎社会性において、昨年より全ての項目で向上しました。入学時と比べ、学校外の色々な人に話を聞きに行くことや、地域課題の解決方法について考えることが、自主的にできるようになっていると考えられます。

②学習環境

「本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある(◎探究性)」項目において、教職員が考えるより10p以上も生徒はより良い環境であると評価しました。努めて人と違うことを尊重する(◎協働性)など、教職員の今後の課題も明確となりました。

③生徒の自己能力認識

「選挙権を取得したら、選挙に行くと思う(◎社会性)」項目において、他地域と比較しても選挙に行くと回答した割合が高く、各学年昨年と比べ10p以上向上しました。◎協働性における受容力・対話力は9割以上の生徒が肯定的でした。

④生徒の行動実績

2年生の◎主体性「授業で興味・関心をもった内容について、自主的に調べものを行った」項目において、昨年と比べ20p以上向上しました。一方3年生の◎社会性に関わる行動においての低下は、コロナ禍での活動制限が影響していると考えられ、今後対策を講じていく必要があります。

⑤満足度

「国際社会の課題解決に貢献したい」項目において、昨年と比べ10p以上向上しました。地域のみならず、世界で起きている様々な課題に目を向け、自分ごととして捉えられるようになってきていると考えられます。誰一人取り残さず、生活全般に対する満足度の向上を目指していきます。

文部科学省が打ち出した教育改革推進事業に、令和元年度より3年間の研究指定を受け、目標を「地域への愛着とチャレンジ精神をもち、地域の未来を育てていく市民の育成」として研究開発に取り組みました。

令和元年6月には、鯖江市・鯖江商工会議所との三者連携協定を結び、また令和3年2月には、仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定を結びました。この3年間、民間企業や団体・機関等、多くの地域の方々の参加・協力のもと、地域全体で鯖江高校生の学びや成長を支えていただきました。

「眼育さばえ!」
ビジントレーニングを体験

Think globally!
Act locally!
Sustainable Development Goals
笑顔 つながる 未来。

TANAN CATV
PR 動画制作の
イメージをもとう

「2030SDGs」
カードゲーム体験

エッグドロップに
チャレンジ

鯖江市 SDGs 探究プロジェクト

鯖江高校
鯖江市役所
鯖江商工会議所
同窓会
福井新聞社
地元小中学校
NPO 法人
大学

実験方法と調査
方法を学ぼう!

人形浄瑠璃学び
披露へ

今後、地域の方々のご支援に感謝し、連携を更に深め、研究開発を進めていきたいと考えています。

【写真資料】 小学校との交流

オンラインでの小学生との交流



小学生の感想

